

“私たちの”支えあいプラン

～ 第4期 柏市地域健康福祉活動計画 ～



平成31年3月

社会福祉法人 柏市社会福祉協議会



第4期 柏市地域健康福祉活動計画の策定にあたって



『地域共生社会の実現』という大きな方向性が国により示されました。高齢者、障害者、児童等の制度や分野といった縦割りの構造や、支え手、受け手といった関係性を越えて、市民一人ひとりが地域の課題や生活上の課題を、自分のことと捉えて、その解決に地域一丸となって取り組んでいこうというものです。

第3期柏市地域健康福祉活動計画では、共生と共助の視点にたち、地域一丸となって取り組む活動を6つ、“地域実践プロジェクト”として掲げ、地域の皆さまと共に取り組んで参りました。そして、この取り組みは、今回示された地域共生社会の実現に向けた方向性とまさしく合致しており、私たちはすでに、いち早く取り組んできたと言えます。

第4期柏市地域健康福祉活動計画は、このような流れを受け、第3期計画の見直しというかたちで策定をいたしました。“地域実践プロジェクト”を、“地域共生社会の実現に向けた取り組み”と改め、取り組みの一部を見直しながらもその歩みを継続することといたしました。

地域の皆さま方には、本計画の趣旨をよくご理解いただき、地域での支えあいのしくみや活動がひとつでも多く誕生するようご尽力賜りますようお願い申し上げます。それによって、計画の理念『だれもが、その人らしく、住み慣れた地域で、ともに、いきいきと暮らせるまち 柏』が実現されることを期待しています。柏市社会福祉協議会といたしましても、市民の皆さまとともに、本計画を推進し、地域共生社会の実現に向けて一層努力してまいります。

結びに、本計画の策定にあたり、ご尽力いただきました柏市地域支えあい推進協議会の皆さまや関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

社会福祉法人 柏市社会福祉協議会
会 長 中 谷 茂 章

目 次

■ 地域健康福祉活動計画

I	地域健康福祉活動計画とは	2
1	計画策定の目的	2
2	計画の位置づけと期間	3
II	地域共生社会の実現に向けて	4
1	地域共生社会とは	4
2	地域共生社会の実現への経緯	4
3	柏市が目指す地域共生社会	5
4	地域共生社会の実現に向けて	7
5	地域共生社会のモデル的な取り組み	8
III	計画理念と大切な仕組み	9
1	計画理念（この計画が目指すもの）	9
2	計画推進の仕組み	10
IV	地域共生社会の実現に向けた取り組み	12
1	“我が事の意識”での地域活動への参加	14
2	情報の発信と積極的な共有	15
3	誰もが集える居場所づくり	16
4	孤立・孤立感のない地域づくり	17
5	困りごとを支えあうしくみづくり	18
6	ゆるやかで幅の広い多様な連携と協働	19
7	地域を支える新たな財源の普及と活用	20
	地域実践宣言！	21

■ 社協アクションプラン

I	社協アクションプランとは	26
1	社協アクションプランと社協活動の方向性	26
2	地域福祉の進め方	27
3	市社協の役割	28
II	重点的な取り組み（事業全体に共通する考え方）	29
1	孤立させない・孤立感のない体制やしくみづくり	29
2	重層的な支えあい活動の推進と支援	30
3	協議体機能を活かした新たな連携や活動の創造	31
III	具体的な取り組み	32
1	地域・団体支援、ネットワークづくり	34
2	新たなしくみや活動づくり	37
3	人材の育成や活用、支援	40
4	生活課題解決への取り組み	44
5	情報発信・普及啓発	47

■ 社協発展・強化計画

I	社協発展・強化計画とは	5 0
1	社協発展・強化計画とは	5 0
2	策定の背景	5 0
II	社協の使命と経営理念	5 1
1	社協の使命	5 1
2	経営理念	5 1
3	組織運営方針	5 1
III	社協発展・強化計画（4つの戦略）	5 2
1	拠点戦略	5 2
2	人事戦略	5 4
3	運営戦略	5 6
4	財政戦略	5 8
IV	取り組みの推進と評価	6 0

■ 地区別計画

I	地区社会福祉協議会とは	6 2
1	地区社会福祉協議会とは	6 2
II	役割と取り組みの柱	6 3
1	役割	6 3
2	取り組みの柱	6 4
3	ふる協（地区社協）の活動	6 5
III	地区別計画の推進	6 6
1	地区別計画とは	6 6
2	策定方法と計画の活用	6 6
3	計画の進め方と評価	6 6

各地区別計画 ※（ ）内は頁数 6 7

柏中央地区（67）／ 新田原地区（68）／ 永楽台地区（69）
富里地区（70）／ 豊四季台西地区（71）／ 豊四季台地区（72）
旭町地区（73）／ 新富地区（74）／ 高田・松ヶ崎地区（75）
松葉地区（76）／ 田中地区（77）／ 西原地区（78）
富勢地区（79）／ 土地地区（80）／ 藤心地区（81）
光ヶ丘地区（82）／ 酒井根地区（83）／ 南部地区（84）
大津ヶ丘・塚崎地区（85）／ 風早北部地区（86）
風早南部地区（87）／ 手賀地区（88）

■ 資料

I	計画の策定経過	9 0
II	柏市地域支えあい推進協議会名簿	9 1

地域健康福祉活動計画

I 地域健康福祉活動計画とは

1 計画策定の目的

“つながり”と“支えあい”のあるまちづくりへ

多様な地域活動と身近な地域で“共に”つながり・支えあうことは、とても大切なことです。そして、市民、地域組織、団体、社協、行政等は、違う立場や役割を担いながらも“共に”住みよいまちづくりに取り組むことが求められています。

「第4期柏市地域健康福祉活動計画」は、国の動きや柏市が策定する地域健康福祉計画の方向性を踏まえながら**住民や地域が主体となり、共に住みよい地域をつくる「自助や互助」の視点に立った計画**として策定しています。本計画は、柏市における地域活動の更なる推進と市民一人ひとりが、身近な生活課題を『我が事』として捉え、その解決に向けて地域一丸となって取り組む“つながり”と“支えあい”のあるまちづくりを推進するものです。

(1) 日常生活の困りごとは、“他人ごと”から“自分ごと”へ

柏市の高齢化率は、平成29年度に25%を超えました。また、ひとり暮らしの高齢者は、平成27年度（2015年）には、16,875世帯でしたが、2020年には、19,083世帯にまで増加すると予測されています。

一方、柏市が平成29年度に実施した第4期柏市地域健康福祉計画策定のためのアンケート調査（以下、「福祉計画策定調査」）における近所付き合いの設問では、44%の市民が「あいさつ程度が殆ど」と回答しています。このような中、高齢者の日常生活の困りごと（ゴミ出し等）や町会活動の運営等、身近な生活の場で、様々な福祉課題やコミュニティ活動への影響が出始めています。

(2) 求められる地域共生社会の実現

また、孤独や孤立、貧困、介護、育児、虐待等、誰しものが陥る可能性のある福祉課題は、多様化や複雑化し、公的制度だけでは対応できない「制度の狭間にある課題」や「複合的な課題」として顕在化しつつあります。

このような中で国は、地域のあらゆる市民が生活課題を“我が事”として捉え主体的にその解決に取り組み、公的な福祉サービスと連携や協働し、助け合いながら暮らすことのできる「地域共生社会の実現」の必要性を掲げています。

(3) つながりと支えあいのある地域へ

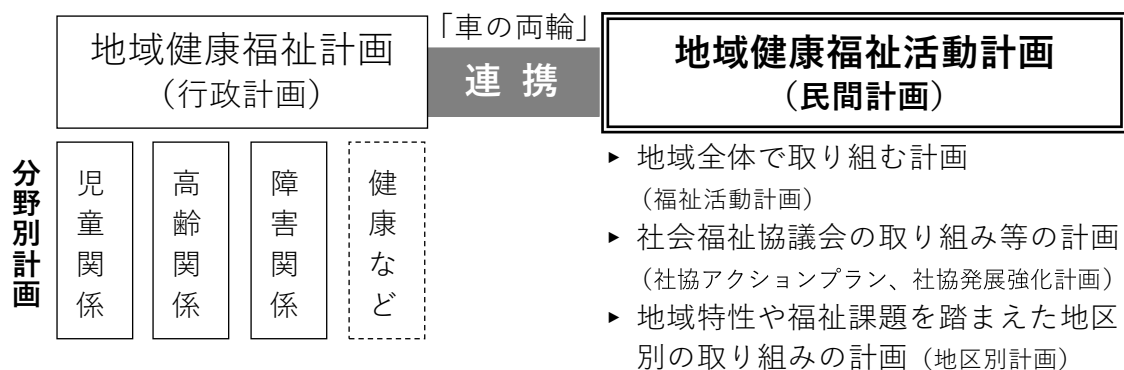
柏市では既に、市民の手によって様々な地域活動が展開されています。近年では、町会単位やコミュニティエリア単位での居場所づくりや支えあい活動といった、身近な助けあいや支えあいの活動も広がりを見せています。

市民一人ひとりの積極的な活動への参加や協力こそ「地域共生社会」を実現させる近道となります。つながりと支えあいのある地域へ、共に、その歩みを始めませんか。

2 計画の位置づけと期間

「地域健康福祉活動計画」は、地域健康福祉計画（行政計画）の方向性を踏まえ、連携を図りながら**市民や各種団体が主体的に取り組む「健康福祉活動の計画（民間計画）」**です。そのため、地域健康福祉計画とは、車の両輪のような関係にあります。そして、地域健康福祉を効果的に進めるためには、「行政」と「市民（地域住民や各種団体等）と柏市社会福祉協議会」が連携して取り組む必要があります。本計画は、地域健康福祉計画の方向性を踏まえ、一体的な計画として策定するものです。

■ 地域健康福祉計画と地域健康福祉活動計画との関係



また、計画の期間は、2019年度（平成31年度）から2024年度までの6カ年とし、計画3年目の中間見直しをはじめ、計画期間内であっても必要に応じて見直しを行います。

なお、本計画は第4期の計画となります。第1～3期計画では、下記のような特徴や成果等があり、これらの流れを踏まえ、第4期計画は策定されています。

	第1期（平成18～20年度）	第2期（平成21～25年度）	第3期（平成26～30年度）
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 活動計画、地区別計画、民間協働計画を策定 ▶ 新たな地域福祉のあり方の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域密着宣言と重点プロジェクト ▶ 福祉計画との位置づけや連携、分担の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域の取り組みと社協の取り組みのすみ分け ▶ 基本理念に“共に”を追記（共助の視点強化）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 協働意識の醸成、地区活動の把握（地区活動マップの作成）等 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域活動センター設置 ▶ 成年後見センター設置 ▶ ボランティアセンターの活性化等 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 子育て支援機能の充実 ▶ 助けあい活動や居場所づくりの推進・強化 ▶ 計画的な職員採用等
課題	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 担い手不足 ▶ 身近な地域活動のコーディネート機能の必要性等 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域関係の希薄化 ▶ 人材育成と地域活動センターの拡大 ▶ 社協経営基盤（組織/財政）の強化等 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 生活課題（ゴミ出し等）や孤立、貧困の連鎖等、個別課題への対応 ▶ 多様な人材や団体との新たなしくみづくり

Ⅱ 地域共生社会の実現に向けて

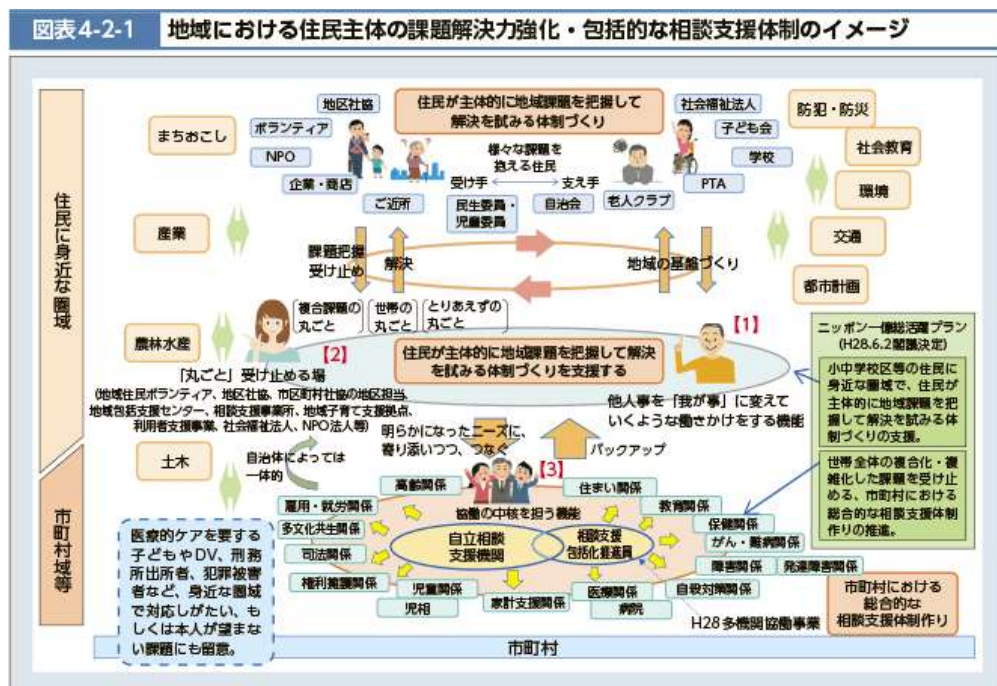
1 地域共生社会とは

地域共生社会とは、制度・分野ごとの「縦割り」や“支え手”と“受け手”という関係を超えて、市民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて、『丸ごと』つながることで、市民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会のことを言います。

地域や個人が抱えている生活問題を他人事として考えるのではなく、市民一人ひとりが、自分自身と関係のあること（我が事）として捉えること。そして“支え手”も“受け手”であり、“受け手”も時に“支え手”であるという、お互いがお互いに支え、支えられる関係やしきみをつくり、地域や個人の課題を地域全体で解決する“地域の力”を高めていこうと言うものです。

2 地域共生社会の実現への経緯

我が事・丸ごとの地域共生社会という考え方は、平成 27 年 9 月に『新たな時代に対応した福祉ビジョン』において、新しい地域包括支援体制の確立を目指すことを国が打ち出したところより始まりました。そして、平成 28 年 6 月の『ニッポン一億総活躍プラン(閣議決定)』の中で、初めて“地域共生社会の実現”という考え方が示され、その後、「我が事・丸ごと地域共生社会実現本部」の設置や有識者による「地域における住民主体の課題解決力強化・相談支援体制のあり方に関する検討会」での議論、社会福祉法の改正等を経て、現在 2020 年代当初の『地域共生社会の全面展開』を目指し、全国的に取り組まれているものです。



【資料】平成 29 年版厚生労働白書

3 柏市が目指す地域共生社会

国は、市町村に対し、地域共生社会の実現に向けた地域の取り組みを支援することや市民や地域の生活福祉課題を、縦割りではなく『丸ごと』受けとめ、公的なサービスや相談機関と連携し、解決を図ることができる包括的な相談支援体制を整備することを求めている。それらの取り組みを「地域福祉計画」の中に盛り込むこととしています。第4期柏市地域健康福祉計画（以下、「福祉計画」）では、これらの点を下記のとおり示し、次頁のようなイメージ図を示しています。

◎ 高齢分野で先行している「地域での支えあい活動」を活かしながら、地域福祉活動の拠点として地域いきいきセンター等を活用し、地域の福祉専門職や福祉団体と連携し、地域福祉に関わる機会の醸成、身近な地域の課題の吸い上げから課題解決に向けた仕組みづくりにつなげていきます。

◎ 専門相談機関をまたぐ複合的な課題に対しては、包括的に相談内容を整理できる人材を配置し、複合的な問題に対する問題の整理、問題に応じた関係機関との連携を行うことで、問題解決につなげていきます。

（福祉計画より一部抜粋）

また、地域共生社会の実現も含めた福祉計画の推進について、市民や地域、行政がお互いを尊重し役割を持って、連携・協力することにより取り組んでいくこととされ、それぞれの役割を下記のとおり示しています。

◎ 市民の役割

誰もが住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができるよう、住民一人ひとりが主体的に考え行動し、つながりを作り、見守り、支えあいを実践することが必要です。

◎ 地域の役割

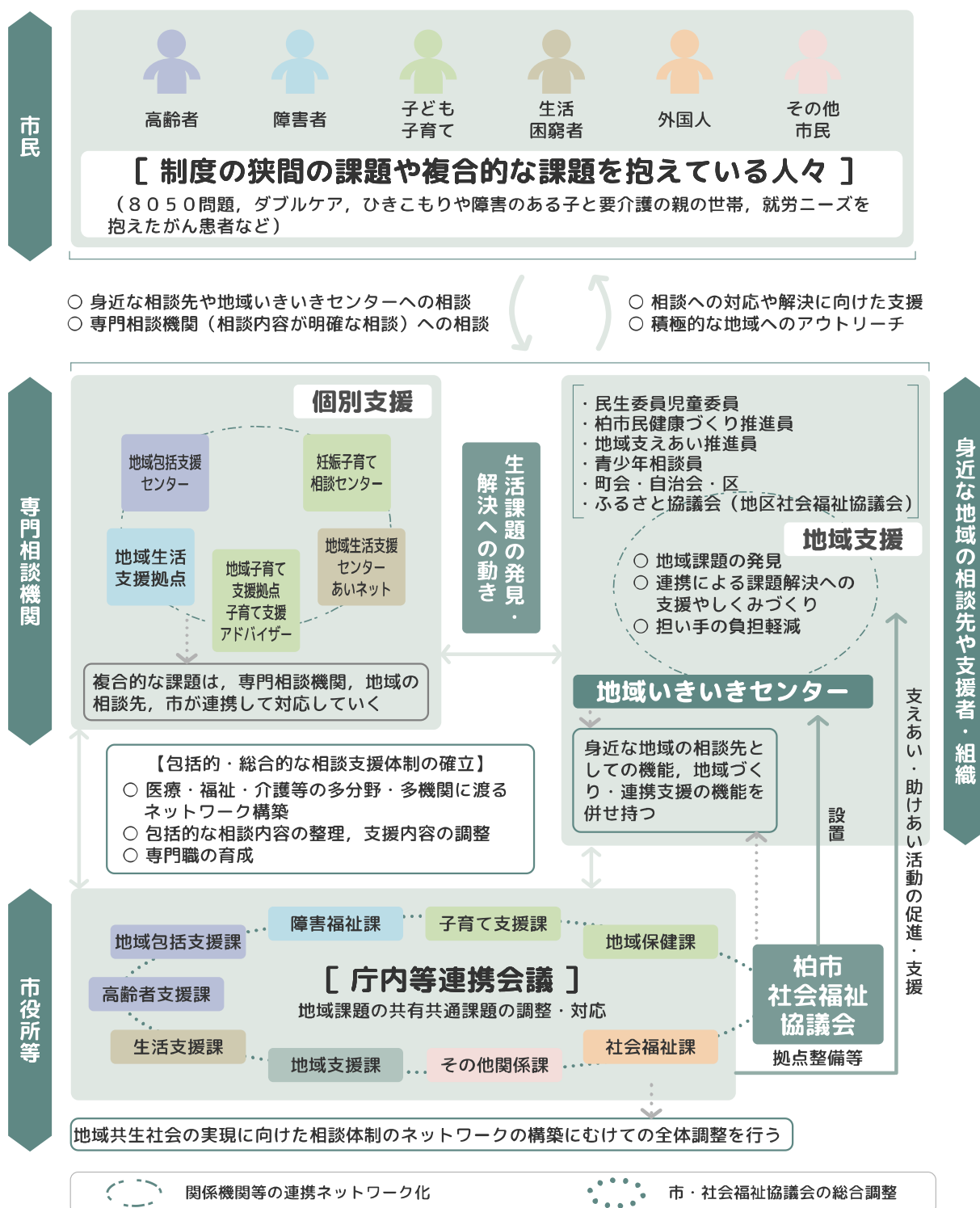
町会・自治会・区・ふるさと協議会（地区社会福祉協議会）等は、地域福祉を推進するための基盤として、また住民が地域福祉に参画する場としての役割が期待されています。今後も、地域における見守り、支えあい活動を進めていくとともに、地域の課題を解決するため、住民、地域の団体、行政との連携強化を進め地域福祉活動の活性化につなげます。

◎ ボランティア・NPO等の役割

複雑化・多様化する悩み等を抱える人が増加している中で、住民とともに様々な活動を展開し、行政、関係機関と連携することで地域の多様なニーズに対応する福祉サービスの提供を行います。

（福祉計画より一部抜粋）

〔 地域で支えあう体制づくりと包括的な相談支援体制のイメージ 〕



4 地域共生社会の実現に向けて

(1) “地域共生社会の実現”とは、新しい取り組みなのか

“地域共生社会の実現”とは、新しい目標でも取り組みでもありません。

これまでの地域健康福祉活動計画（以下、「活動計画」）の中で目指し、取り組んできたことの延長線上にあるものです。ただ、さらにその取り組みについて、市民一人ひとりが、改めて地域や同じ住民に目を向け、日々の生活の中で起きる様々な生活課題に対し、“自分にも関係すること”や“自分に出来ることは何かないか”と考え、協力しあい課題解決や新たな取り組みを創りだしていこうというものです。

(2) どんな取り組みや活動が必要なのか

地域には、既に“地域共生社会の実現”に向けた取り組みが数多く、市民の手で取り組まれています。例えば、隣近所の助けあい、孤立防止や介護予防等を目的に、町会・自治会や民生児童委員、柏市民健康づくり推進員、ボランティア等、多くの関係者で開催されているサロン活動や集い。ごみ出し等のちょっとした困りごとを助けあう生活支援サービス等、様々です。その他にも、高齢者がこども達の通学を見守る活動や電車で高齢者や障害者に席を譲る学生。障害者が美味しいお菓子や素敵な作品をつくり、みんなを喜ばせることも地域共生社会実現への取り組みです。

(3) 誰もが“支える側”であり、“支えられる側”であること

地域共生社会の実現で大切なことは、みんなが“支える側”であり“支えられる側”であることを理解することです。そして、すべての人が地域共生社会を構成する一員として、積極的に生活に困っている人を支え、誰もが住みよい地域づくりに参加するお互いさまの取り組みを充実させることです。

これまでは、家族や公的制度のみで解決できた生活課題も、核家族化や高齢者世帯、支援対象者の増加とともに、地域活動者の高齢化や担い手不足、生活課題の複合化や制度の狭間の課題等、解決や対応が難しい課題が増えました。しかし、多くの市民は、いつまでも住み慣れた地域でいきいきと生活したいと考えています。そのためには、市民一人ひとりが、個人の生活上の課題を、地域全体の課題として捉えること。そして、その解決に向けて市民や制度ボランティア、相談支援機関、社会福祉法人、NPO、行政機関、社会福祉協議会等が、手を取りあい総力を挙げて対応することが求められます。

地域共生社会の実現とは、市民一人ひとりの協力と参加により実現するものです。この活動計画では、地域共生社会の実現に向けた取り組みを7つ掲げています。多くの市民が、地域共生社会を構成する一員として、共に活動していくことを期待するとともに、柏市社会福祉協議会は、その取り組みを全面的に支援していきたいと考えています。

5 地域共生社会のモデル的な取り組み

柏市の西原地域では、地域住民と福祉施設（社会福祉法人）が、ともに協力しながら、“地域の居場所”を立上げ、週1回、誰もが集える居場所をオープンしています。平成29年7月、「居場所」をテーマにした地区懇談会を開催した際、参加した施設長（柏きらりの風）の「うちの施設でやりませんか？」の一言から取り組みが具体化し、平成30年6月にオープン。利用者は、既に平均40名となり、近くにお住まいの方々や幼稚園帰りの親子、また会場である特別養護老人ホームの入居者等、幅広い世代がこの場を訪れ、楽しいひと時を過ごしています。

ボランティアは36名。スタッフは、午前・午後各4名体制ですが、人気のあまり活動が出来ない時もある。また、近くの障害者施設（就労継続支援B）がつくる美味しいパンも毎回11時に販売に来ており、パンを目当てに利用する方もいるほどの人気ぶりです。※平成31年3月現在

地域にある社会福祉施設を拠点とした地域住民の活動と、地域組織（ふるさと協議会）や障害者施設等とも連携した取り組みは、まさに地域共生社会のモデル的な取り組みと言えます。



Ⅲ 計画理念と大切な仕組み

1 計画理念（この計画が目指すもの）

**だれもが、その人らしく、住み慣れた地域で、
共に、いきいきと暮らせるまち 柏**

柏市では、“地域がだれにとっても生まれてから生涯を全うするまで暮らしやすい場”となることへの想いを込めて、『だれもが、その人らしく、住み慣れた地域で、共に、いきいきと暮らせるまち 柏』を地域健康福祉像として掲げています。

活動計画では、福祉計画と一体的に地域健康福祉活動を推進するため、柏市が目指す地域健康福祉像を共有し、計画理念として掲げます。



○ **だれもが（ユニバーサルデザイン）**

年齢や性別、障害の有無、国籍などを超えて、すべての人を対象として考えていくという意味を込めました。ユニバーサルデザインの考え方である「だれにとっても（すべての人にとって）」という考え方も含んでいます。

○ **その人らしく（福祉）**

すべての人の尊厳が尊重され、本人の意思で選択し、決定することができ、心豊かに自分らしく生きていける社会、一人ひとりが持てる能力を最大限に生かして、その人らしく生活できる環境を構築していきたいという想いを込めています。

○ **住み慣れた地域で（地域）**

高齢や障害等により誰かの支えが必要な状態になっても、慣れ親しんだ地域でいつまでも住み続けていけるようにという想いを込めています。

○ **共に（支えあい）**

すべての人が共に暮らしやすい地域になるようにという想い、そして、住民同士が共に助けあい、支えあう「共助」の関係の中で暮らしていけるようにという想いを込めています。

○ **いきいきと暮らせる（生きがい・健康）**

だれもが社会から孤立することなく、人とのかかわりのなかで生きがいを持ち、喜びや楽しみ、悲しみなどを共感し、わかちあえる関係の中で暮らしていけるようにという想い、そして、それぞれの生活環境や健康状態が異なっても、地域の支えあいや専門機関の支援等により、前を向いて、将来に希望を持って生活していけるようにという想いを込めています。

2 計画推進の仕組み

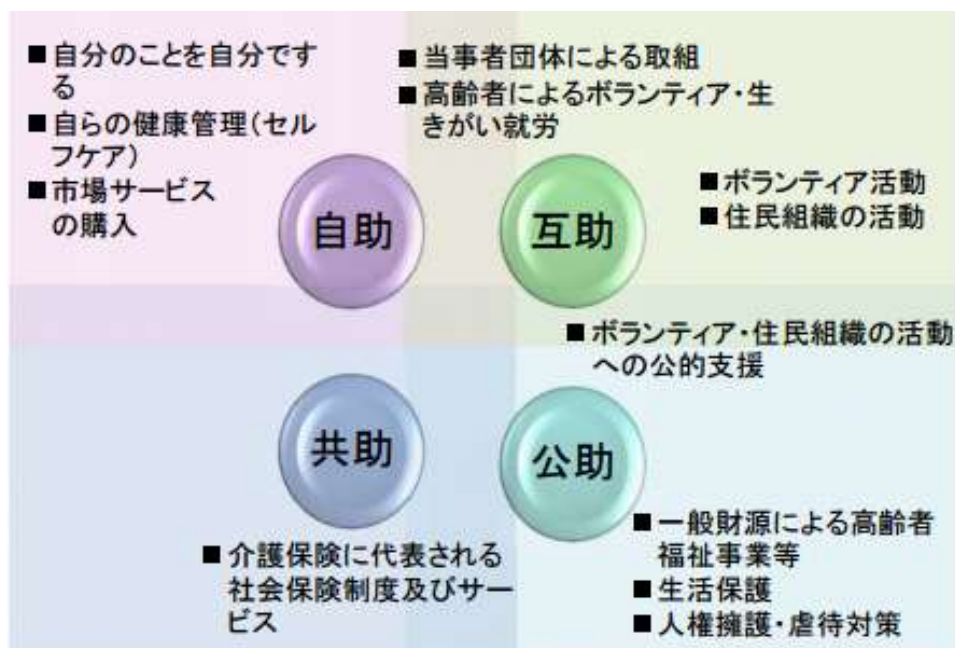
(1) 自助、共助・互助、公助

柏市では、地域福祉を『地域住民や福祉活動を展開する団体、事業者と行政が協働して地域の福祉課題の解決に取り組み、住民共通の願いである「だれもが安心して暮らし続けることのできる地域づくり」を進めること』としています。また、『地域に住む一人ひとりが自立するための努力（自助）、地域に住む人が協力して行う日常的な生活援助活動（共助・互助）、行政が責任をもつ公的福祉サービス・支援等の取組み（公助）がそれぞれの役割を分担し、互いに連動しながら全体としてまとまった機能を発揮させることにより、はじめて実現することができる』としています。

地域の健康福祉課題が多様化する中で、公的制度（公助）だけではすべての生活福祉課題を解決することは難しいのが現状です。特に、高齢化の進展や単身世帯の増加等による身近な見守りや日常生活の困りごとは、一人ひとりの「自助」と地域全体の支えあいや助けあいによる「互助」の取り組みで解決を図ることが求められます。そして、公的支援である「公助」と、介護保険等の「共助」が役割を分担しながらも連携や協働することで、より効果的な支援体制が築かれていきます。※『 』福祉計画より一部抜粋

本計画は、地域における「自助」「互助」の取り組みを推進するものです。

本計画を推進する柏市社会福祉協議会は、地域健康福祉活動を推進する“地域福祉の推進役”として自助、互助の活動を支援する役割を担います。



【参考】平成25年3月地域包括ケア研究会報告書より

※ 福祉計画では、「共助」と「互助」を「共助・互助」と記載しています。本計画では、柏市の意図を踏まえながらも、その取り組みの性格上、地域包括ケアシステムにあるとおり、「共助」と「互助」を分けて記載しています。

(2) 重層的な圏域

柏市では、効率的・効果的に地域健康福祉活動が展開できるように、最も身近な地域交流や活動を行う「地域自治組織圏域」から、市全体としての課題解決を行う「市全域」まで、市域を4つの圏域に区分しています。

[重層的な圏域のイメージ]



第4期 柏市地域健康福祉計画より

柏市内でも、高齢者が多い地域や子育て世帯が多い地域、昔からのつながりの強い地域や少ない地域等の地域性があり、その日常生活での福祉課題も様々です。これからは、日常生活上の困りごとやその解決に向けた取り組みを、地域性を考慮し、活かしながら積極的に取り組むことが求められます。

本計画は、身近な地域の支えあい活動が「地域自治組織圏域」「コミュニティエリア」「日常生活圏域」で広く取り組まれるように推進するものです。

本計画を推進する柏市社会福祉協議会は、町会・自治会・区等やふるさと協議会（地区社会福祉協議会）、ボランティア団体やNPO・社会福祉法人、各種関係機関等と連携を図りながら、身近な支えあいのしくみづくりを支援する役割を担います。

Ⅳ 地域共生社会の実現に向けた取り組み

地域共生社会の実現と計画理念『だれもが、その人らしく、住み慣れた地域で、共に、いきいきと暮らせるまち 柏』の実現に向けて、市民一人ひとりや関係団体、機関等が、地域の中で、共に助けあいながら進めていく具体的な取り組みを掲げました。地域の中に新しいしくみや活動が数多く誕生し、支援が必要な若者や子育て世代、障害者、高齢者等が「安心して暮らすことができる地域づくり」を進めます。

地域共生社会の実現に向けての“7つの取り組み”

取り組み 1 “我が事の意識”での地域活動への参加

市民一人ひとりが、町会・自治会やボランティア等、様々な地域活動に参加すること。また、地域の課題を“我が事”として捉え、支えあいや助けあい活動の“担い手”になること。そして、地域活動に参加・協力しやすい環境や機会、しくみをつくり、誰もが気軽に活動に参加できる地域を目指します。

取り組み 2 情報の発信と積極的な共有

市民一人ひとりが、アンテナを高くし、積極的に情報を発信し、取得すること。そして、誰かにとって良い情報は、積極的に伝え、共有しあうこと。必要な人に必要な情報が届き、サービスの利用や新たな活動等につながる地域を目指します。

取り組み 3 誰もが集える居場所づくり

身近な場所に、子どもや若者、高齢者、障害者等、誰もがいつでも集える居場所があることで、様々なつながりや楽しみ、新たな発想や活動の誕生が期待できます。身近な場所に誰もが集える居心地の良い居場所がある地域を目指します。

取り組み 4 孤立・孤立感のない地域づくり

孤立や孤立感は、世代や境遇を問わず、誰もが感じ、陥る可能性のある社会的で身近な福祉課題です。一人ひとりが、人と人とのつながりを意識し、自分自身を含めたすべての人が、孤立しない、孤立感を抱かない地域を目指します。

取り組み 5

困りごとを支えあうしくみづくり

制度では解決できない日常生活上のちょっとした困りごとを、我が事として捉え、市民一人ひとりが出来ることを、出来る範囲で支えあうこと。

地域の中に支えあう人としくみがあり、助けあい・支えあいにあふれた地域を目指します。

取り組み 6

ゆるやかで幅の広い多様な連携と協働

“福祉”という狭い分野に捉われることなく、分野を超えて様々な個人や団体とのゆるやかな連携や協働からは、新しい発想や豊かな活動が生まれます。また、効率的で効果的な側面も期待できます。あらゆる場面でゆるやかで幅の広い多様な連携と協働にあふれる地域を目指します。

取り組み 7

地域を支える新たな財源の普及と活用

遺贈や目的型の寄附、ネット募金の活用にみる多様なファンドレイジング等、様々な寄附の方法や活用のしくみがあります。積極的な地域活動等への寄附や多様な財源確保のしくみのある地域を目指します。

【参考】第4期 柏市地域健康福祉計画（行政計画）の基本方針

柏市では、「地域健康福祉像の実現」に向けて、4つの基本方針を掲げています。本計画の取り組みは、市が掲げる基本方針の実現にも繋がる大切な取り組みとなります。

だれもが、いきいきと暮らし、住み慣れた地域で、共に、いきいきと暮らせるまち 柏

だれもが身近な地域の問題に関心を持ち共に支えあう地域づくり

【施策】 地域での支えあい、助けあい活動の促進／地域福祉活動団体への支援及び活動拠点の整備／地域福祉を担う人材の育成

だれもが暮らしの問題を相談でき解決できる仕組みづくり

【施策】 相談窓口の充実／課題解決に向けたネットワークの構築／情報発信の充実

だれもが健康でいきいきと暮らせる地域づくり

【施策】 地域を核とした健康づくりの促進／地域医療の充実／社会参加の促進

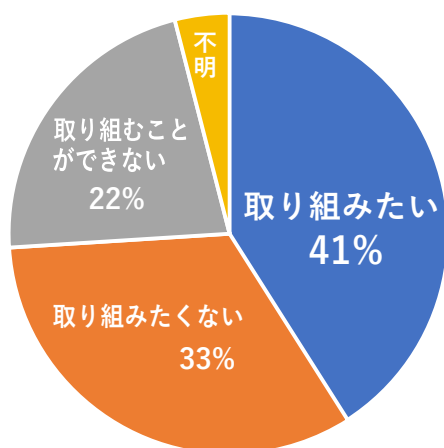
だれもが安全・安心に暮らせる環境づくり

【施策】 防災・防犯対策の充実／居住・移動支援の充実／権利擁護の推進

“我が事の意識”での地域活動への参加

市民一人ひとりが、町会・自治会やボランティア等、様々な地域活動に参加すること。また、地域の課題を“我が事”として捉え、支えあいや助けあい活動の“担い手”になること。そして、地域活動に参加・協力しやすい環境や機会、しくみをつくり、誰もが気軽に活動に参加できる地域を目指します。

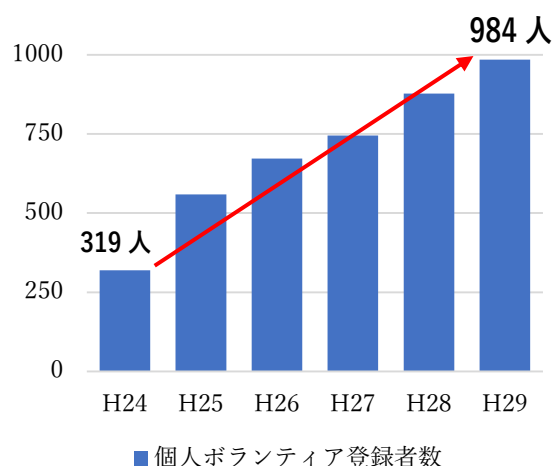
41%の市民は、活動に前向き



福祉計画策定調査の結果では、41%の市民が、地域活動に前向きな回答をしています。また、活動について「具体的に何をすればよいか指示があれば」「依頼があればいつでも」という意見が挙がっています。

団体や活動者からの声掛けが、活動機会の提供や新たな活動者の獲得につながるものと考えられます。

個人ボランティア登録者は、年々増加



ボランティアセンターへの個人ボランティア登録者数は、年々増加しています。団体での活動が、苦手な人や時間に制約のある人も、個人で活動する場面はたくさんあります。

ボランティアセンターに登録して、活動の相談や紹介、情報等を得るところから徐々にボランティア活動を始めることも良いと考えられます。

【取り組み推進へのポイント】

▶ ボランティア活動を始めるにあたって、多くの市民は、「身近さ・気軽さ・活動時間の自由さ」を活動の条件に求めています。

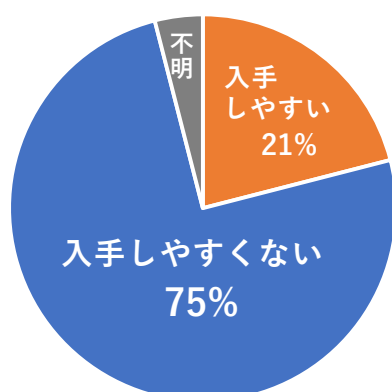
▶ 地道な声掛けや具体的に「〇〇に協力してもらえませんか？」等と呼びかけを行うと、意外と協力してもらえることがある。

▶ 子育てや仕事が落ち着いたら活動に参加してもらえるように、早めに声掛けや情報提供等を積極的、継続的に行うと良い。

情報の発信と積極的な共有

市民一人ひとりが、アンテナを高くし、積極的に情報を発信し、取得すること。
そして、誰かにとって良い情報は、積極的に伝え、共有しあうこと。必要な人に必要な情報が届き、サービスの利用や新たな活動等につながる地域を目指します。

75%の市民が、健康や福祉情報を入手しやすくないと感じている



福祉計画策定調査の結果では、75%の市民が、健康・福祉情報は、入手しやすくないと回答をしています。

しかし情報は、様々な媒体から発信されています。情報の入手については、発信側の更なる工夫とともに、自らアンテナを高くし、積極的に情報を取りに行くこと、共有しあうことも大切なことだと考えられます。

スマートフォン等を活用し、インターネットやSNS等から情報収集をする世代が増加

20～40代の多くは、スマートフォンやSNS※1等を、情報発信や収集、コミュニケーションのツールとして活用しています。また、60代以上の世代を対象としたスマートフォンやSNS関連講座が各地で開催されており、インターネットやSNSは、多くの世代で活用され手軽な情報ツールとして拡大しています。

しかし、インターネット等が苦手な人や馴染みのない人、障害のある人、必要な人に情報が届かないという声もあります。今後は、ITの積極的な活用とともに、受け手を考えた情報発信への工夫や配慮、良い情報を紙媒体や口コミ等で積極的に共有することも引き続き必要なことだと考えられます。

※1 SNSとは、ソーシャル・サポート・ネットワークの略。インターネット上で、人と人がつながる事の出来る Web サービスのこと。

【取り組み推進へのポイント】

▶ 必要な人に必要な情報を届けるには、その人を知る人や関わりのある人が、積極的に必要と思われる情報を伝えるとよい。

▶ 様々な情報媒体があるので、自分から積極的に必要な情報を取りに行くことが、良い情報を得る一番のコツになる。

▶ どんな情報をどんな人（年代等）に届けたいか等、情報を発信する側も届きやすい情報の発信の方法を工夫する必要がある。

誰もが集える居場所づくり

身近な場所に、子どもや若者、高齢者、障害者等、誰もがいつでも集える居場所があることで、様々なつながりや楽しみ、新たな発想や活動の誕生が期待できます。
身近な場所に誰もが集える居心地の良い居場所がある地域を目指します。

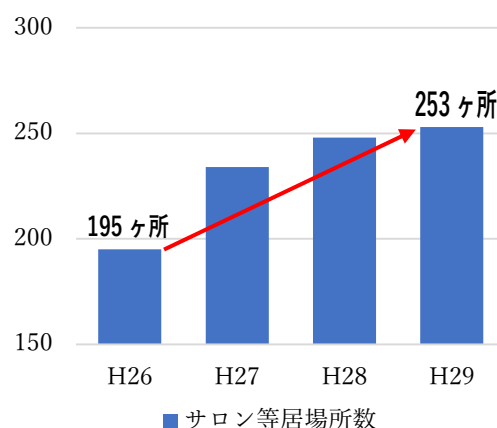
隣近所や世代間の交流が少ないことを地域の課題と考えている

福祉計画策定調査の結果では、地域の問題点や不足点として「交通マナー」「緊急時の対応」に次いで、3番目に『隣近所や世代間の交流が少ないこと』が挙げられています。

また、柏市まちづくり推進のための調査（H29.3）でも、親子が気軽に立ち寄り交流や相談できる場所があるかという問いに49%の市民が「そうは思わない」と回答しています。

近隣関係が希薄化する一方、若者や子育て世代、高齢者に至るまで世代を問わず、誰もが気軽に立ち寄れて、話ができる居場所や気軽に参加できる交流の場が、求められていると考えられます。

サロン等の居場所は、年々増加



高齢者や子育てサロン、誰もが集えるコミュニティカフェ※1等、地域の居場所は、市民の活動によって年々増加しています。今後もあらゆる世代の人たちが気軽に集い、楽しく仲間づくりや関係を深めることのできる多様な居場所が、さらに広がることが、期待されます。

※1 コミュニティカフェとは、NPO 団体等が対象を問わず、飲食やイベント等を通じて、居場所や交流、情報交換等を行うことを目的に開かれる取り組み。

【取り組み推進へのポイント】

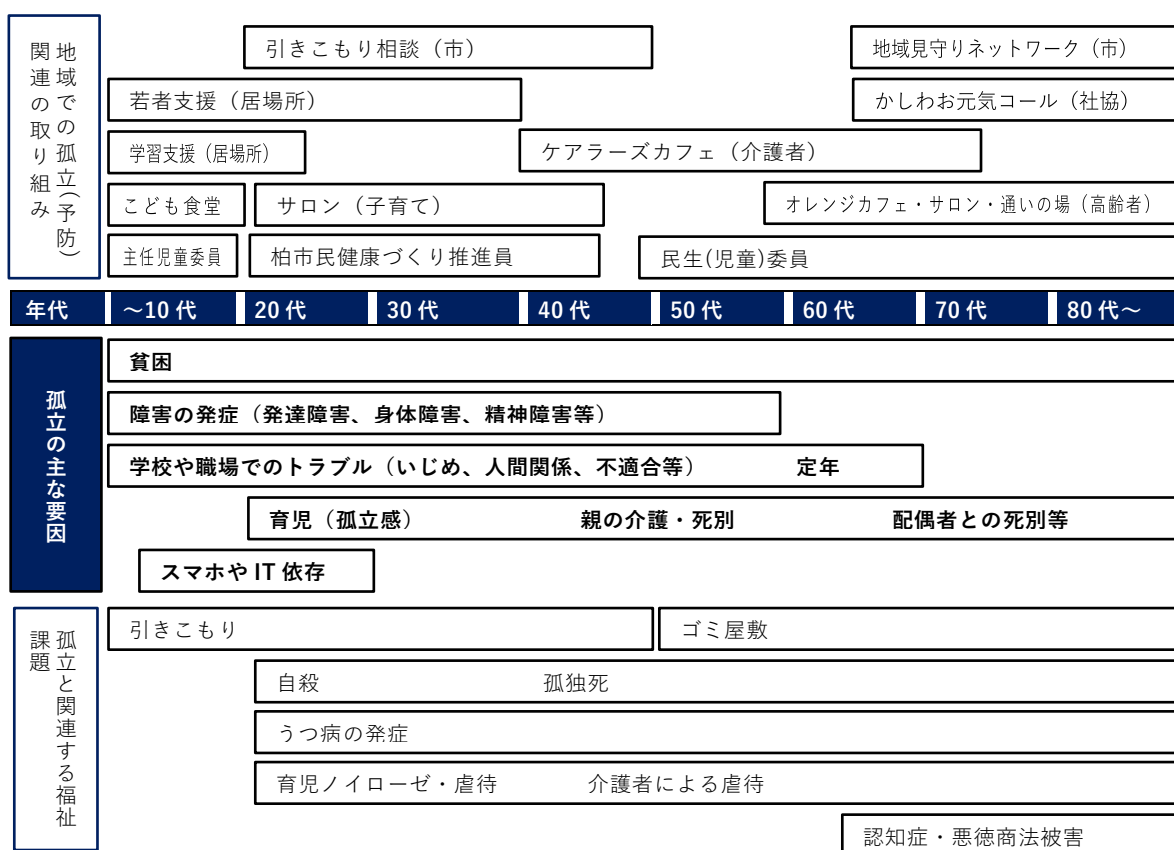
▶ 来てほしい人に来てもらう工夫や人集めの仕掛けが必要。また、参加者の固定化で参加しにくいとの声に耳を傾けていくことも大切。

▶ 今あるサロン等の居場所も、少し視点を変えたり、工夫したりすることで新たな展開や参加者に広がりを見せることができる。

▶ これからは、子育てや高齢者等の対象別の居場所よりも、誰もが集える居場所をつくる方が、交流も広がり運営面でも効率的である。

孤立・孤立感のない地域づくり

孤立や孤立感は、世代や境遇を問わず、誰もが感じ、陥る可能性のある社会的で身近な福祉課題です。一人ひとりが、人と人とのつながりを意識し、自分自身を含めたすべての人が、孤立しない、孤立感を抱かない地域を目指します。



孤立は、誰にでもどの世代でも起こりうるものです。決して他人事と思わず、日々の隣近所とのお付き合いや社会参加を大切にすること。また、孤立防止等を支える担い手としての参加等、自分も他人も孤立しない、孤立感のない地域づくりには、日ごろからの一人ひとりの意識と参加や活動が、大切なものと考えられます。

【取り組み推進へのポイント】

▶ 男性は、女性に比べ退職後や単身になると孤立しやすい。仲間との趣味や地域での活動等は早いうちから始めていた方が良い。

▶ 手助けが必要になってから関わるというよりも、元気なうちから関わりを持つことや持てる場所を考えることが大事。

▶ 孤立防止と言っても、若者や子育て、高齢者、障害者等、世代や境遇により、背景が違うことを理解して取り組む必要がある。

困りごとを支えあうしくみづくり

誰もが抱える制度では解決できない日常生活上のちょっとした困りごとを、我が事として捉え、市民一人ひとりが出来ることを、出来る範囲で支えあうこと。

地域の中に支えあう人としくみがあり、助けあい・支えあいにあふれた地域を目指します。

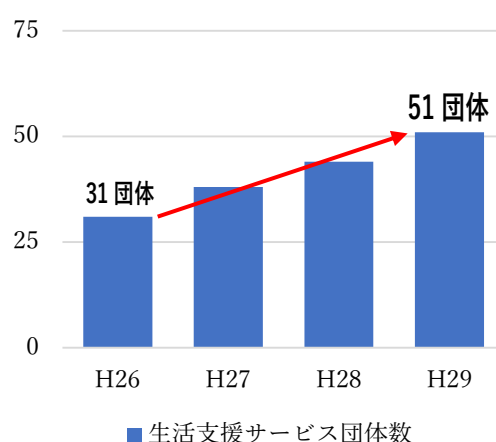
85%の市民は、助けあい活動が必要だと考えている

福祉計画策定調査の結果では、身近な地域での助けあい活動の必要性に関する問いに対し、85%の市民が必要・どちらかと言えば必要と回答しています。また、支えあいや助けあいへの関心度に関する問いには、66%の市民がとても関心がある・少し関心があると回答しています。

地域の支えあい活動等の取り組みは、市民が主体となって身近な地域で取り組むことが大切です。そして、多くの協力者が必要となります。

一人でも多くの市民が、年齢や資格等を気にせず、少しの空いた時間を活用し、地域の支えあい活動の担い手として、出来ることを、出来る範囲で行うことが必要であり、期待されるところです。

生活支援サービス団体は、着実に広がりを見せている



町会エリアやコミュニティエリア等を活動範囲として、ごみ出しや草取り等、日常生活のちょっとした困りごとのお手伝いをする住民主体の団体や活動は、年々着実に増加しています。制度では対応できない困りごとを地域で支えあう活動やしくみは、今後さらに必要となります。

【取り組み推進へのポイント】

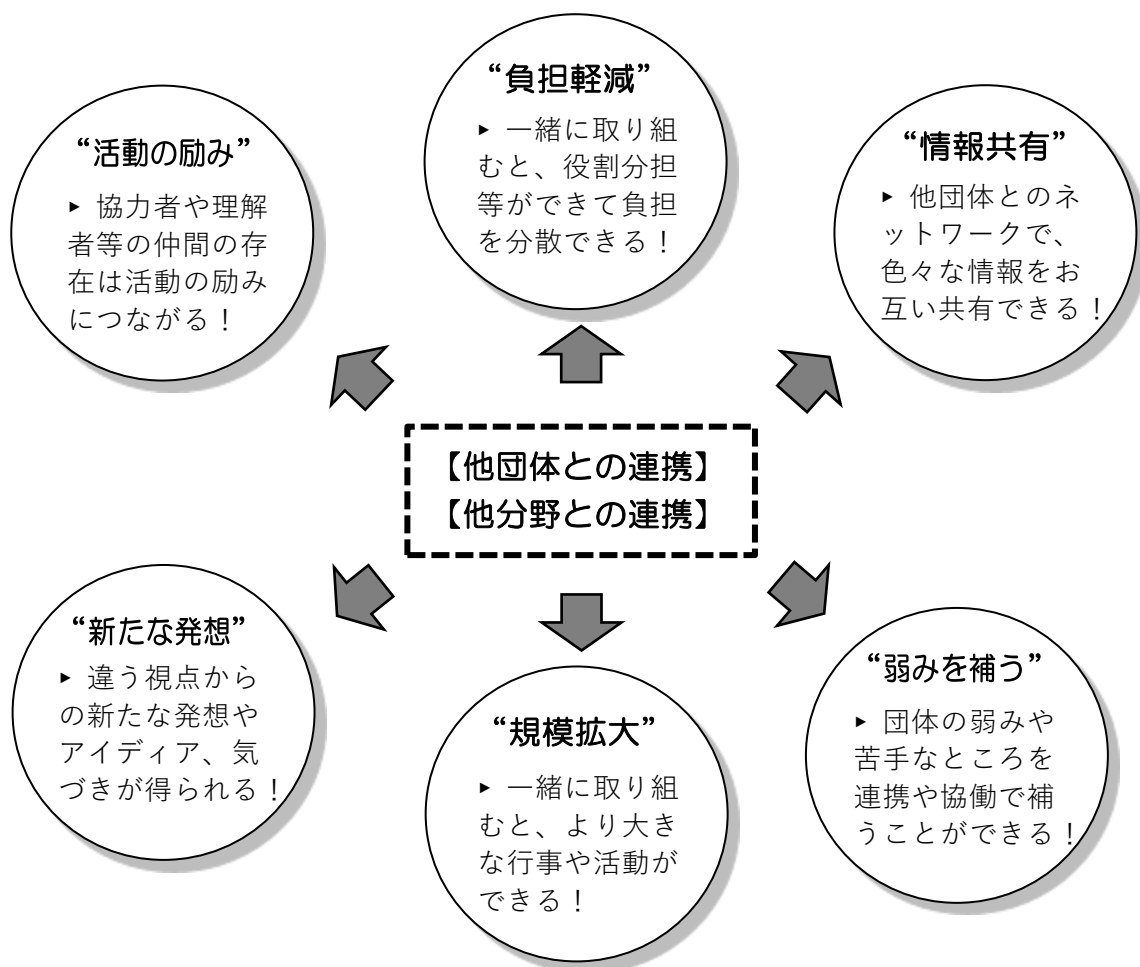
▶ 団塊の世代が75歳となる2025年に向けて、今から少しずつでも準備を始めて、活動の基盤を固めておく必要がある。

▶ 困っている時に、玄関に旗を立てる等、助けあいのしくみややり方は、色々ある。よい方法を隣近所や町会等で話し合うとよい。

▶ 助けあいのしくみだけを考えるのではなく、地域の文化や既にあるご近所での助けあいを大切にする必要もあることである。

ゆるやかで幅の広い多様な連携と協働

“福祉”という狭い分野に捉われることなく、分野を超えて様々な個人や団体とのゆるやかな連携や協働からは、新しい発想や豊かな活動が生まれます。また、効率的で効果的な側面も期待できます。あらゆる場面でゆるやかで幅の広い多様な連携と協働にあふれる地域を目指します。



【取り組み推進へのポイント】

▶ 福祉の中だけの狭い連携ではなく、異分野や異業種との積極的な交流により、新たなつながりや活動の広がりが期待できる。

▶ どの団体も活動者の高齢化や不得意な部分等がある。これからは、他の団体と連携し、協力しあいながら活動していく方が良い。

▶ 実際にふれあうことや顔の見える関係ができるとお互いに理解が深まるので、ゆるやかにでもつながる機会をどんどん持つとよい。

地域を支える新たな財源の普及と活用

遺贈や目的型の寄附、ネット募金の活用にみる多様なファンドレイジング等、様々な寄附の方法や活用のしくみがあります。積極的な地域活動等への寄附や多様な財源確保のしくみのある地域を目指します。

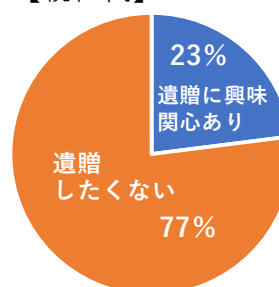
寄附から幸福感を得ることもある

2008年にエリザベス・ダン等（心理学者）が「寄付と幸福感」に関する実験を行ったところ、寄附する方が（他人のためにお金を使う）、寄附しない方（自分のためにお金を使う）よりも幸福感が大きかったそうです。一つの実験結果ですが、面白い結果です。

寄附は、社会貢献の一つのかたちです。寄附をする時やしようとする時に、寄附を通じて笑顔になれる人を増やしたい、熱心な活動を支援したい、自分の想いを寄附で実現したい等、寄附者それぞれが、目的を持って寄附をすることが大切です。また、寄附を受ける団体等も、活動の伝え方やお願いの仕方、報告等のコミュニケーションを寄附者としっかりとすることで、寄附者により良い関係ができ、継続的な支援に結びつくかもしれません。

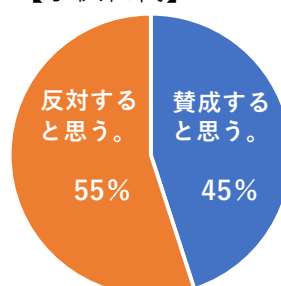
遺贈寄附は、これからに期待

【親世代】



60歳以上の親世代に「社会貢献のための遺贈について」聞いたところ5人に1人は前向きな回答が得られました。

【子供世代】



子供世代に「親が遺贈寄附をすると言ったら」と聞いたところ、約半数は、賛成との回答が得られました。

遺贈寄附は、今後、新たな寄附のかたちとして期待されます。

出典：「遺贈に関する意識調査」（2017年）
実施者／日本財団（ホームページより）

【取り組み推進へのポイント】

▶ 活動団体の目的や活動内容を明確にして、「〇〇な活動がしたいので寄附を」と、具体的に呼び掛けた方が寄附はしやすいのでは。

▶ 遺贈や目的型等、様々な寄附のかたちがあるので、社会のために寄附をしたいと思ったら、自分の想いにあう寄附の方法を選べる。

▶ 補助金や助成金等に頼らなくても活動できるように、自分たちの団体等にあう財源の獲得のしくみや方法を考える必要がある。

実践活動宣言！

～ 私たちは、地域共生社会の実現に向けた取り組みを推進します！～

多くの市民の参加こそ「地域共生社会」実現への近道！

柏市ふるさと協議会連合会 会長 根本利治（柏市支えあい推進協議会委員）

ふるさと協議会では、様々な活動を通じて、住みよい地域・ふるさとづくりを推進しています。しかし、住みよい地域や地域共生社会の実現には、市民一人ひとりの参加や協力が必要です。まずは、お住いの地域やふるさと協議会の活動に少しの「かかわり」でこころを寄せてください。そして、地域の活動や課題を“身近なこと”と捉え、何か1つでも取り組みを始めてください。共に地域共生社会の実現を目指しましょう。

地域住民の身近な相談相手

柏市民生委員児童委員協議会 会長 山名恵子

民生委員児童委員は、地域の住民に最も身近な存在であり、住民の立場に立って寄り添った支援を行っています。日々の訪問活動を通じて支援を必要とする人を把握し、行政や関係機関と連携を図り「発見」、「つなぐ」、「見守り」を行っています。誰もが孤立せず、地域の人々に働きかけ支え合える地域を目指します。

私達は、子育て世代の孤立を防ぐ取り組みを推進します！

柏市民健康づくり推進員連絡協議会 会長 平野準子

柏市は、転入者が多く、子育て世代の多くがマンションやアパートの一室で子育てをしています。この世代が孤立しないように、私達は「赤ちゃん訪問」で地域のつどいやサロン、子育て支援施設を紹介し、お友達づくりや情報交換を通じて安心して子育て出来る地域を目指します。また、他団体と協力し、「母と子のつどい」「健康講座」を行い、赤ちゃんから高齢者まで健康に暮せる地域を目指します。

「おたがいさま」をつなげていく

柏市非営利団体連絡会 代表 堀田きみ（柏市支えあい推進協議会委員）

たすけあいの原点は「こまった時はおたがいさま」の気持ちです。住民同士、有償で生活支援サービスを提供します。「本当に助かりました」と言う利用者さんの笑顔にこちらも笑顔になります。複数のたすけあい団体で協力して解決することもあります。専門の窓口を紹介することもあります。これからも、たくさんの方々と知り合って教わって連携していきたいと思えます。

地域の皆さまを見守り、地域の皆さまと共に助け合いたい！

増尾地域見守り助け合い隊活動 会長 大江幹

高齢や障がい等で日常生活に支援を要する地域住民の見守り・助け合いは、各町会・自治会の互助体制により推進するのが基本ですが、支援体制が整わない町会・自治会もあります。それを「見守り助け合い隊活動」で補完することによりコミュニティエリア全体の「見守り・助け合い」を推進していきます。

ヒト・モノ・カネをシェアする時代に向けて

一般社団法人 Neighborhood Care 代表理事 吉江悟（柏市支えあい推進協議会委員）

あらゆる取り組みを行うためには、ヒト・モノ・カネが必要だと言われます。

昨今、これらをシェアしてより有効活用するという流れがあります。働き方改革の推進を通じて、ヒトも、主に一組織に属する存在から、社会の中で多様な役割を持った存在へと変化していく途上にあります。この活動計画の実施を通じて、地域共生社会に向けた「ヒト・モノ・カネのシェア」が進むことを期待しています。

地域共生社会の実現に向けた取り組み

柏市老人福祉施設連絡協議会 会長 吉野一實（柏市支えあい推進協議会委員）

重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを、人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される仕組みが必要です。安心できる場所、環境を提供できる究極の住まいは、特別養護老人ホームです。ゆりかごから看取りまで担う地域共生社会の実現を目指します。

介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らすために

柏市介護支援専門員協議会 副会長 植野順子（柏市支えあい推進協議会委員）

介護保険は、介護が必要な方を支える制度ですが、介護が必要な方の生活全てを支えるためには充分とは言えず、地域の方の「ほんの少しの支え」がある事で、生活が成り立つことが多いと実感しています。我々、介護支援専門員は、地域共生社会の実現のために必要なことを地域に発信し、必要な情報を必要な人に届けるお手伝いをさせて頂く役割を持ちたいと思います。

障害があってもなくても気軽に集える居場所づくり

柏市心身障害者福祉連絡協議会 会長 細田智子（柏市支えあい推進協議会委員）

柏市心身障害者福祉連絡協議会では、障害のある方の社会参加の場として、35年間活動してきた柏市教育福祉会館1階「かしわっ葉」喫茶コーナーを耐震工事のため平成31年3月末で終了いたしました。しかし、支えていただいた多くのボランティアの方々の希望もあり、4月からパレット柏で、誰でも立ち寄れる「市民交流カフェ」を開きます。これからも、障害がある人もない人も笑顔あふれるまちづくりを目指します！

孤育てさせない、つながりを育むきっかけづくり

特定非営利活動法人赤ちゃんのほっぺ 代表 西藤尚子（柏市支えあい推進協議会委員）

私たちの活動の原点は、代表が子育てスタート時に地域とうまくつながれなかった孤立感です。「孤（子）育てにならないつながりづくり」を15年経った今も大切にしています。昨年11月にNPO法人化し、気持ち新たに子育て世代に寄り添う「つながりをつくる居場所づくり」「子育て支援者がつながるネットワークづくり」を目指します。

子どもたちへの眼差しを私たちと一緒に育む仲間も増やしていきたいと思います。

若者の就労支援&ひきこもり家族支援の取組みについて

認定NPOキャリアデザイン研究所 理事長 村松正敏

私達は、「漂流する若者を支援し社会に送り出す」ことを理念に、公的資格（キャリアコンサルタント・カウンセラーや社会保険労務士等）をもった会員の集まりです。厚労省・自治体の委託を受け「若者サポートステーション」の運営、「ひきこもり家族支援」等を行うことで、地域社会の抱える課題解決に貢献したい、と強く願いながら日々活動をしています。これからも一人でも多くの若者等をサポートしていきたいと思います。

孤立のない地域づくりを目指して！

柏市地域生活支援センターあいネット 所長 白田東吾

私たちは、福祉の分野に捉われず、分野を横断して様々な機関と連携していきます。

市民の安心した暮らしを支えるために、障害の有無や年齢を問わず、どんな相談でもお受けしていきます。地域で孤立して誰にも相談できない人達を早期に発見し、支援につなげるために民生委員児童委員との連携をより強化していきます。

おひとりさまからおたがいさまへ！

市民後見人 松本茂

私は現在、市民後見人として、また日常生活支援員として4人の困りごとのお手伝いをさせていただいております。いずれの方も独居の高齢者＝おひとりさまの方です。

この活動現場から見えてくる超高齢社会の地域課題を「自分事」と捉え、日常生活上困っている人をみんなで支え合う「おたがいさま」の地域づくりにこれからも自分のできる範囲で関わり続けたいと思います。

地元に愛される地域密着型の企業を目指します！

今山住建株式会社 総務部 部長 久保豊喜（社会福祉協議会への長期継続寄付企業）

平成3年より、柏で営業しております。弊社の企業理念に「私達の仕事が必ず社会の貢献に繋がると信じ行動し日々研鑽する」とあり、毎日唱和しております。地域共生社会の実現に向けた取り組みに引き続き協力し、寄附や情報を発信し活動に貢献して行きたいと考えます。他の企業にも声をかけ、地域での支えあい、助けあいに協力致します。

私達は誰もが集えるコミュニティづくりを宣言します！

柏市民公益活動団体 柏健康ソーラン倶楽部 代表 藤崎成吾（一般公募）

私達柏健康ソーラン倶楽部は、誰もが健康でいきいきと楽しく孤立なく暮らせるよう、よさこいソーラン踊りを通して転倒予防・ロコモ予防・介護予防に関する必要な知識や方法を身につける機会を提供する場として、誰もが集えるコミュニティを、市内各地に作ることを目標に活動し、健康寿命を延ばして「健康長寿社会」の実現に貢献します。

地域共生社会の実現に向け、多くの関係機関や団体、活動者の皆さまから実践活動宣言！というかたちで、活動の推進や今後の意気込み、取り組みへの期待等のお声をいただきました。

地域共生社会の実現には、様々な機関や団体、活動者の理解、協力、実践が必要です。

そんな中、これだけの関係者の皆さまから、力強いお声をいただけたことは、本当に心強い限りです。

市民ひとり一人、そして、多くの関係機関や団体等が、地域共生社会の実現に向けた7つの取り組みの推進やそれぞれの実践を展開していくことができれば、地域共生社会は、必ず実現できます。ともに、地域共生社会の実現に向けて取り組んでいきましょう！

社協アクションプラン

I 社協アクションプランとは

1 社協アクションプランと社協活動の方向性

(1) アクションプランとは

アクションプランとは、福祉計画の地域健康福祉像や基本方針、また、活動計画の地域共生社会の実現に向けた取り組みを踏まえ、この6年間で、柏市社会福祉協議会（以下、「市社協」）が実施すべき取り組みを具体的に計画化したものです。

(2) アクションプランの取り組みについて

アクションプランは、大きく「重点的な取り組み（事業全体に共通する考え方）」と「具体的な取り組み」の2つの取り組みにより構成されています。

① 重点的な取り組み（事業全体に共通する考え方）

特に力を入れる取り組みとして、第3期活動計画から掲げ、すべての取り組みに共通した考え方として、事業等に反映します。また、第2期活動計画で掲げた「コーディネーターの配置」「支えあい活動の立上げ支援」「ボランティアの育成支援」は、具体的な取り組みとして継続します。

② 具体的な取り組み

全国的な方向性や柏市の地域課題等を踏まえ、市社協の福祉課題への取り組みを具体的に計画化したものです。この取り組みは、地域共生社会の実現に向けた取り組みを、市社協として後押しする取り組みでもあります。

(3) 社協活動の方向性（全社協／社協・生活支援活動強化方針等）

全社協・地域福祉推進委員会は、平成29年5月「社協・生活支援活動強化方針（行動宣言と第2次アクションプラン）」において、地域における深刻な生活課題や地域福祉課題（社会的孤立等）に応える社協事業等の方向性と具体的な事業展開を改めて示しました。また、国の“地域共生社会の実現”という福祉改革の基本コンセプトや指針等を受け、平成29年12月「地域共生社会の実現に向けた社協の事業・活動の展開に向けて」を全国の社協に提起しました。

今後の社協は、対象者ごとに提供されてきた福祉サービスや活動を、分野横断的かつ総合的に提供することの必要性を理解するとともに、行政や地域へ働きかけを行うこと。自治体の“地域共生社会の実現”に向けた施策や計画に主体的・積極的に関わるとともに、庁内連携による包括的な取り組みへの働きかけを行うこと。そして、市社協が目指す地域づくりや事業等の方向性と役割について、行政や関係機関、地域住民等と共有し、より一層のパートナーシップや連携の強化、支援体制の構築等に取り組むことが重要であるとしています。

なお、強化方針で掲げられた「あらゆる生活課題への対応」「地域のつながりの再構築」に向けた「アウトリーチの徹底」「相談・支援体制の強化」「地域づくりのための活動基盤整備」「行政とのパートナーシップ」の4項目の考え方や取り組みは、本計画のアクションプランに反映させています。

2 地域福祉の進め方

市社協は、柏市民が住む地域での活動を最も重要視しています。それは、市民が生活する場であり、身近な助けあいや支えあいが必要不可欠な場だからです。

だれもが住みよい地域づくりへの取り組みは、隣近所の助けあいから、あらゆる個人や団体、機関等が協力しあう地域ぐるみの取り組みまで様々です。

市社協は、個人や世帯における生活課題から地域の福祉課題まで、その解決に向けて取り組みを行います。そして、地域の助けあいや支えあいの関係づくり、しくみづくり等を行いながら“地域共生社会の実現”を目指します。

(1) 地域活動組織の設置と支援

各地区の特性を踏まえた地域活動を組織的・効果的に取り組むために、住民組織として『地域活動組織（地区社会福祉協議会）』を設置しています。現在では、ふるさと協議会の福祉部門を担う組織として活動を進めており、身近な福祉課題の解決や福祉活動における中心的な役割を担っています。また、地域の様々な団体との連携や協働、支援等の取り組みも行います。

(2) 地域いきいきセンターの設置

分野を問わない福祉の初期相談窓口や生活課題の解決、地域活動の支援、多様な活動との連携、人材育成等を行うため、市民の身近な場所である近隣センターに『地域いきいきセンター』を設置しています。この取り組みは、第2期活動計画から始まり、市社協における“地域共生社会の実現”に向けた生活・地域支援の中心的な拠点として、柏市や地域の協力を得ながら各コミュニティエリアへの設置を進めます。

地域いきいきセンターの設置やその取り組みは、柏市が策定する第4期福祉計画においても、地域で支えあう体制づくりの推進や問題解決に向けた包括的な相談支援体制の構築を進める上で、重要な拠点として位置づけられています。地域福祉の支援機能と身近な相談先や専門相談の機能を併せ持つ地域いきいきセンターは、地域の課題の吸い上げや地域と連携した課題解決への取り組み、そして複合的な課題解決に向けた繋ぎや解決への連携支援等、相談支援包括化推進員の機能を視野に入れた取り組みや機能の充実が期待されています。

(3) 地区担当職員の配置とコミュニティソーシャルワーク

その地区における様々な地域課題や生活課題を抱える市民等を発見し、地域住民や社会資源との協力関係や連携体制を構築しながら、地域全体でその課題解決に取り組むための支援やしきみづくり（コミュニティソーシャルワーク）を行う存在として、各地区に『地区担当職員』を配置します。

ふるさと協議会や福祉施設、民生委員児童委員、柏市民健康づくり推進員、地域支えあい推進員等の他、学校や商店街、地元企業等、福祉分野に留まることなく、様々な地域団体や活動者との協力・連携関係を築き、必要な支援を行いながら、その地区の特性を活かした“地域共生社会の実現”を目指します。

また、地区の課題や個別の課題を、他人事とはせず、市民一人ひとりが我が事の課題として捉え、取り組む意識を醸成していくことも、地区担当職員の重要な役割と考えています。

【参考】地域いきいきセンター



《主な取り組み》

- ▶ 福祉総合相談
(分野を問わない初期相談窓口)
- ▶ 地域の支えあい推進
- ▶ ボランティアコーディネート
- ▶ 地域組織との連携・活動支援
- ▶ お元気コール事業

など

《設置場所》

- | | |
|------------------|---------------|
| ○ 風早南部地域いきいきセンター | (高柳近隣センター内) |
| ○ 松葉町地域いきいきセンター | (松葉近隣センター内) |
| ○ 光ヶ丘地域いきいきセンター | (光ヶ丘近隣センター内) |
| ○ 豊四季台地域いきいきセンター | (豊四季台近隣センター内) |
| ○ 富勢地域いきいきセンター | (布施近隣センター内) |

平成 31 年 3 月末現在

3 市社協の役割

地域健康福祉像の実現に向けて、地域福祉の推進役である市社協は、柏市が策定する第4期福祉計画において、その役割を『地域福祉の推進を担う中心的な団体であり、地域の見守り、支えあい活動を通じた地域課題の抽出、課題解決に向けて市民とともに地域、関係機関・団体等との連携を図り、地域福祉推進の体制を整備するもの』とされています。※『 』福祉計画より一部抜粋

また、地域で支えあう体制づくりの推進において、地区担当職員によるコミュニティソーシャルワーカーとしての地域支援の取り組みが記されています。そして、問題解決に向けた包括的な相談支援体制の構築では、地域いきいきセンターの各コミュニティエリアへの設置が目標に掲げられ、センターの設置とその機能の充実が記されています。

これらのことを踏まえ、市社協は、地域福祉の推進と地域共生社会の実現に向けて重要な役割を担う組織であることを再認識し、引き続き柏市と連携を図りながら柏市が目指す地域健康福祉像の実現に向けて取り組みます。

Ⅱ 重点的な取り組み（事業全体に共通する考え方）

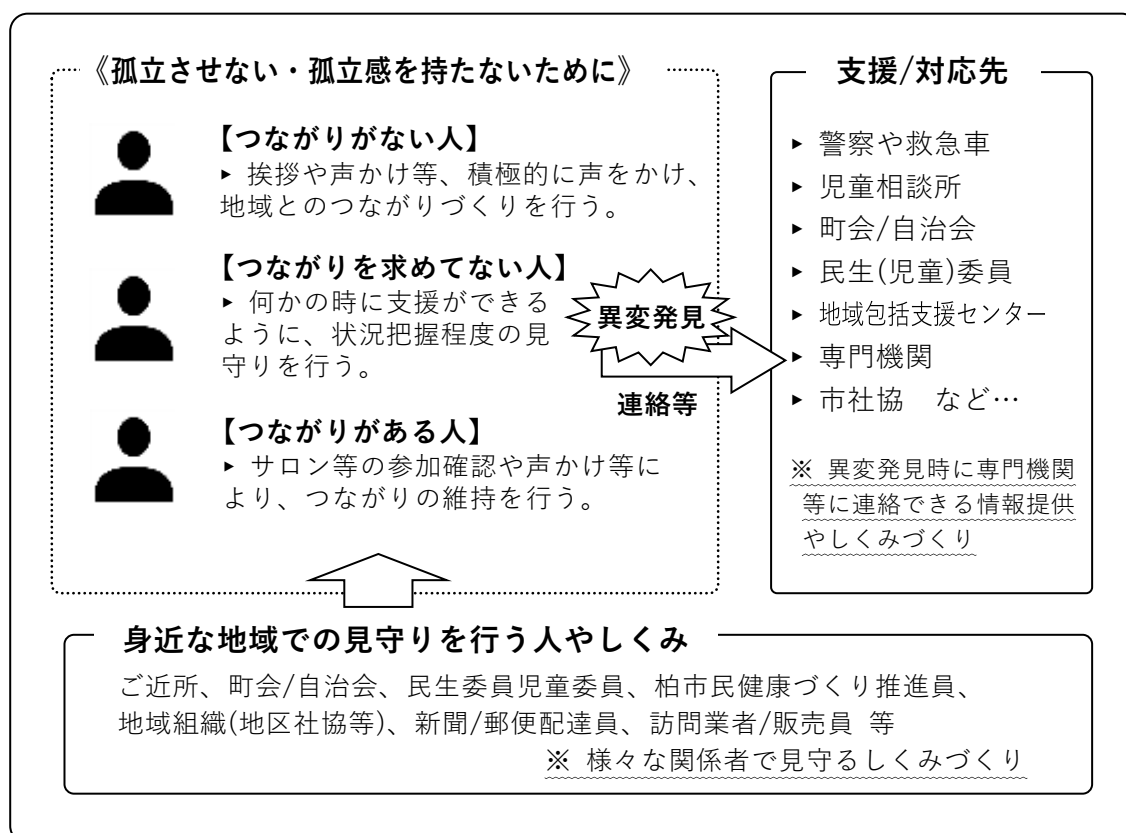
1 孤立させない・孤立感のない体制やしきづくり

近隣関係の希薄化や家族形態の変化、経済不況等による社会的孤立は、全国的な課題となり、高齢者だけでなく、子育て世代や障害者、生活困窮者、若者まで、だれもが陥る社会的な問題となりました。近年では、身近な見守りから要援護者支援、サロン活動、子ども食堂、若者支援、誰もが集える居場所づくり等、孤立させないための取り組みが広く多方面で取り組まれています。

しかし一方で、どの取り組み等からも漏れてしまう人、訪問や参加を拒む人等と如何につながりを持つかが、大きな課題となっています。“つながらない人”や“つながりを拒否する人”に対し、あらゆる視点や方法等でアプローチを行い、社会的な孤立の防止や孤立感のない状態をつくることは、地域全体で取り組むべき大きな課題と言えます。

今後、たとえ高齢者が一人暮らしになっても、地域で安心して生活をするためには、市民一人ひとりが、この課題を“我が事”として捉え、地域全体で日常적인見守りやつながりづくりを意識することが必要です。

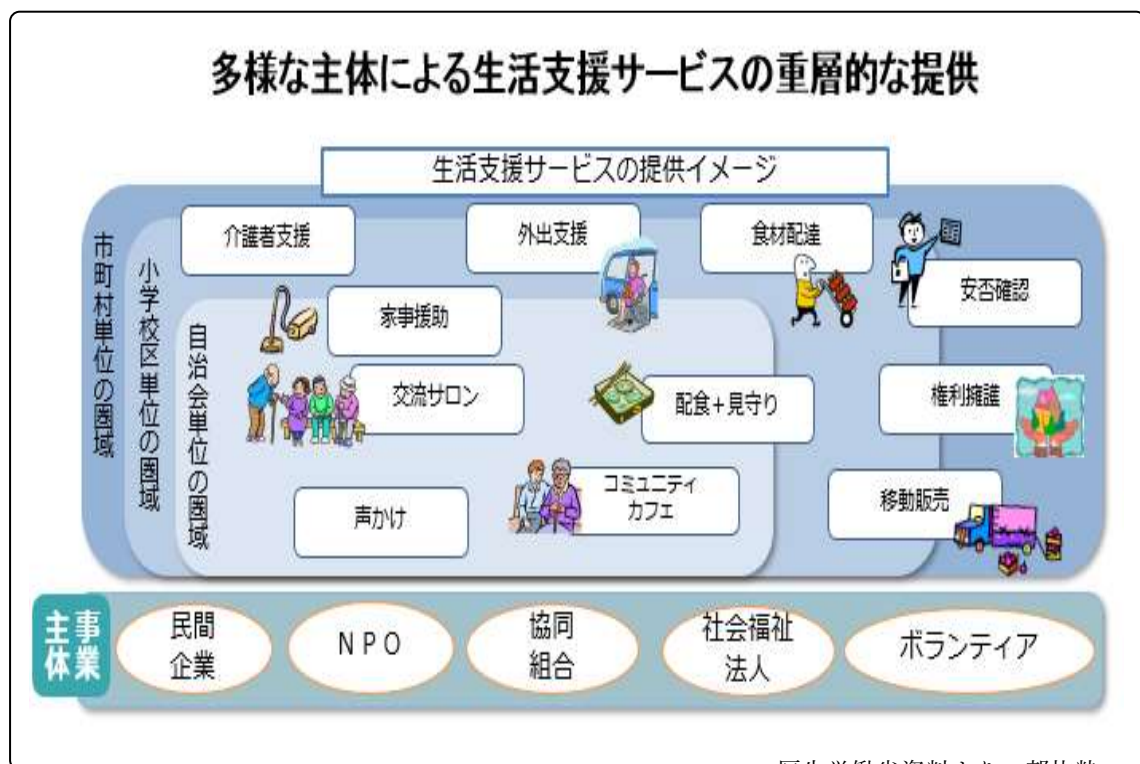
市社協は、「身近な地域での日常적인見守り等による孤立させない・孤立感のない体制づくり」を様々な取り組みを通じて進めます。



2 重層的な支えあい活動の推進と支援

在宅で暮らす高齢者や障害者等が抱える日常生活課題（ごみ出し等）は、年々増加傾向にあります。一方で、その課題解決に向けては、多様な団体が生活支援サービスに取り組み始めています。特に近年では、支えあい活動の推進により、町会・自治会単位からコミュニティエリア単位まで、様々な助けあい団体が誕生しています。また、各団体が、その種別や規模を越え、同じ地域に共存し、連携や協働しながら支援サービスを提供するケースが、少しずつではありますが生まれつつあります。しかし、今後さらなる高齢化や単身高齢者世帯の増加等が見込まれる中、生活課題を抱えながらも在宅で安心して生活するためには、公的なサービスとともに、多様な事業主体による更なる重層的な生活支援サービスの提供と連携が必要となります。

市社協は、『支えあい活動の更なる推進と連携、協働による重層的な支援体制の構築』に向けて様々な取り組みを通じて進めます。



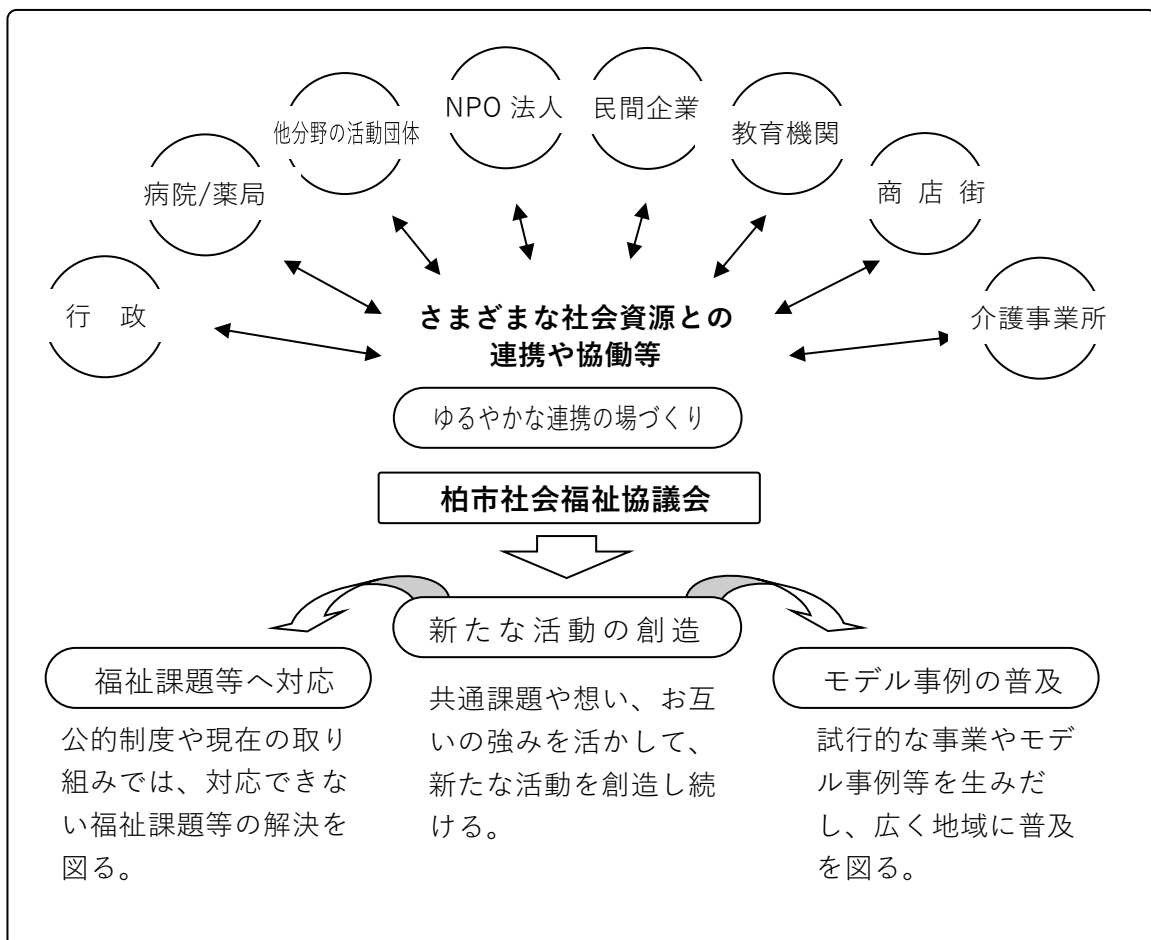
3 協議体機能を活かした新たな連携や活動の創造

地域における生活福祉課題は複雑多様化し、公的制度や支援サービスでは、解決できない課題があります。また、今まで家族間や隣近所、町会・自治会等で解決してきた日常生活上の困りごと、核家族や単身者世帯の増加、担い手不足や高齢化等により、それぞれの力だけでは支えることが難しい状況にあります。

このような中で、今後、あらゆる生活福祉課題等に対応するためには、従来の取り組みとともに、色々な分野や違う考えを持つ団体、関係機関等が常日頃からゆるやかな関係やネットワークを形成し、いざという時に連携や協力、協働しながら課題解決への取り組みや新たな活動を創造することが必要となります。

社会福祉協議会は、多くの関係機関や団体等により構成される協議体組織であり、柏市には、ボランティアやNPO法人等の様々な活動団体や支援機関等があります。

市社協は、その協議体機能と柏市の社会資源を活かし『団体や関係機関との連携や協働等による新たな活動の創造』に向けて様々な取り組みを通じて進めます。



Ⅲ 具体的な取り組み

具体的な取り組みは、子どもや若者、高齢者、障害者、育児世代、生活困窮者等あらゆる世代や境遇にある市民全体やボランティア活動者、団体、NPO、社会福祉法人、企業等を対象に個別的、横断的な様々な活動を展開するものです。

また、これらの活動は、地域福祉の推進や福祉課題の解決に対する市社協の取り組みを計画化したものであるとともに、地域全体で取り組む「地域共生社会の実現に向けた取り組み」を後押しするものでもあります。

本計画では、具体的な取り組みを大きく5つの柱にまとめています。それぞれの取り組みは、必ずしも1つの柱に収まるものではなく、見方によっては2つ3つと複数の柱に関連するものが数多くあります。しかし、今回は、各取り組みが最も大きく関わると考えられる柱にのみ取り組みを記載しています。（「再掲」として、他の柱に同じ取り組みを再び記載することはしていません。）

なお、次頁にあります「具体的な取り組みと対象との関係」は、参考までにどの取り組みが、どのような対象と関わりがあるのかを一覧にしたものです。

取り組みの柱

取り組みの柱	内 容
1 地域・団体支援、ネットワークづくり	地域福祉の推進や「我が事」「丸ごと」地域共生社会の実現に向けて欠かせない地域や団体への支援や連携、ゆるやかなネットワークづくり等の取り組みを行います。
2 新たなしくみや活動づくり	地域の居場所や支えあい活動、孤立防止等の他、今後、起こりうる福祉課題に対応するために必要な新たなしくみや活動づくり等の取り組みを行います。
3 人材の育成や活用、支援	市民一人ひとりが地域や日常生活上の課題を、我が事として、課題解決に取り組む意識の醸成や必要な人材の育成や活用、活動支援等の取り組みを行います。
4 生活課題解決への取り組み	子育て支援や障害者、高齢者等の権利擁護や移動困難者、複合的な福祉課題を抱えた世帯への支援等、具体的な生活課題解決に向けた取り組みを行います。
5 情報発信・普及啓発	地域共生社会の実現や障害理解、意思決定支援等広く市民の理解や取り組みが必要な事柄について情報発信や普及啓発等の取り組みを行います。

【参考】具体的な取り組みと対象との関係 ※ 取り組みの主となる対象は「◎」

	項 目	掲載 ページ	子 ども ・ 若 者	子 育 て 世 代	障 害 者	高 齢 者	生 活 困 窮 者	活 動 者 ・ 団 体	市 民 全 般
1 地域・団体 ネットワーク づくり	(1) 地域いきいきセンターを拠点とした身近な相談支援 や地域づくりの推進	34	○	○	○	○	○	○	◎
	(2) コミュニティソーシャルワーカーとしての地域支援 の実施	35	○	○	○	○	○	○	◎
	(3) ふるさと協議会や町会等、地域組織との連携の強化	35						◎	
	(4) ゆるやかなネットワークの構築	35						◎	
	(5) たすけあいの重層化の推進	36						◎	
	(6) 支えあい団体を利用しやすい環境づくり	36	○	○	○	○	○	◎	○
2 新たなしくみや活動 づくり	(1) 多様な居場所づくりの推進	37	○	○	○	○	○	◎	◎
	(2) 支えあい活動の推進	37	○	○	○	○	○	◎	◎
	(3) 見守りのしくみづくりと支援	38	○	○	○	○	○	◎	◎
	(4) 効果的な介護予防活動の創造と普及	38				◎		○	○
	(5) 新たな福祉課題へのモデル的な活動の実施	38						◎	○
	(6) 空き家の活用等に関する研究	38				○		◎	○
	(7) 子育て支援拠点の充実	39		◎					
	(8) 成年後見制度の利用促進	39			◎	◎			○
	(9) 日常的な活動等に障害者も参加できる環境づくり	39			◎			◎	◎
3 人材の育成や活用 支援	(1) 我が事意識の醸成に向けた福祉教育の推進	40	◎						◎
	(2) ボランティアコーディネート機能の充実	40	○	○	○	○		◎	◎
	(3) 活動の場までつなぐ人材の育成	40						◎	◎
	(4) プロボノの研究	40						◎	◎
	(5) ニーズに応じた人材の育成と確保、活動支援	41						◎	◎
	(6) モデル活動の実施と「地域づくり」との連動	42						◎	◎
	(7) 介護予防を通じた地域活動の支援	43						◎	◎
4 生活課題解決への 取り組み	(1) 総合相談（貸付等）を窓口とした生活課題解決への アプローチ	44	○	○	○	○	◎		○
	(2) 相談の集約と分析による新たな福祉課題への対応	44	○	○	○	○	○		◎
	(3) 複合的な福祉課題解決への連携と支援	44	○	○	○	○	○	◎	◎
	(4) 福祉サービス利用援助事業の速やかな利用に向けた 体制づくり	44			◎	◎			
	(5) 権利擁護の切れ目ない支援	45			◎	◎			
	(6) 介護予防事業の効果的な実施	45				◎			○
	(7) 新たな子ども・子育て支援（預かり事業）の実施	45		◎					
	(8) 移動困難者への支援	46			◎	◎		◎	
	(9) 地域組織との連携による地域包括ケアシステムのモ デル展開と普及	46				◎		○	○
5 情報発信・普及啓発	(1) 地域共生社会の普及啓発	47	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	(2) 福祉課題の社会化（見える化）	47	○	○	○	○	○	◎	◎
	(3) 全世代を対象とした意思決定支援の普及啓発と実施	47	○	○	◎	◎	○		◎
	(4) 障害者のスポーツを通じた理解促進	48			◎			○	◎
	(5) 寄附文化の醸成	48						◎	◎

1 地域・団体支援、ネットワークづくり

(1) 地域いきいきセンターを拠点とした身近な相談支援や地域づくりの推進

地域いきいきセンターでは、地域福祉の支援拠点として、市民の身近な場所での相談支援や複合的な生活課題のコーディネート、支えあいや地域づくりの推進に取り組めます。※ その他の相談もあるため目標値と内数の合計は、一致はしません。

	初年度 (2019)	2 年目 (2020)	3 年目 (2021)	4 年目 (2022)	5 年目 (2023)	最終年度 (2024)
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	市民や専門機関等から相談を持ちかけられる存在になれたか（目標値は、各センター単位の年間利用件数及び内相談件数と内地域支援数とします）。また、解決に向けたコーディネートや取り組みができたか。					

① 風早南部地域いきいきセンター

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
目 標 値 (単年)	1,350 件			1,425 件		1,475 件
内相談件数	203 件			257 件		295 件
内地域支援数	810 件			812 件		811 件

② 松葉町地域いきいきセンター

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
目 標 値 (単年)	1,150 件			1,225 件		1,275 件
内相談件数	175 件			221 件		255 件
内地域支援数	690 件			698 件		701 件

③ 光ヶ丘地域いきいきセンター

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
目 標 値 (単年)	1,200 件			1,275 件		1,325 件
内相談件数	180 件			230 件		265 件
内地域支援数	720 件			727 件		729 件

④ 豊四季台地域いきいきセンター

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
目 標 値 (単年)	1,400 件			1,475 件		1,525 件
内相談件数	210 件			266 件		305 件
内地域支援数	840 件			841 件		839 件

⑤ 富勢地域いきいきセンター

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
目 標 値 (単年)	950 件			1,025 件		1,075 件
内相談件数	143 件			185 件		215 件
内地域支援数	570 件			584 件		591 件

(2) コミュニティソーシャルワーカーとしての地域支援の実施

コミュニティソーシャルワーカーとして、市民とともに個人や地域の生活課題の把握や解決に向けた「我が事」「丸ごと」の地域づくりに取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	地区担当職員が、地域の状況や個別の課題を把握し、市民や様々な社会資源等とともに、その解決に向けた取り組みができたか。					

(3) ふるさと協議会や町会等、地域組織との連携の強化

地域の中心的な組織であるふるさと協議会や町会・自治会・区・管理組合の他、その地域にある多様な社会資源や広域で活動する団体等とも連携を強化し、ともに地域福祉の推進に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	1,500 回			1,700 回		1,800 回
評価指標 (考え方)	地区担当出向回数を目標どおり達成できたか。地区内の様々な社会資源や団体等と連携を強化することができたか。					

(4) ゆるやかなネットワークの構築

既存の会議等と連携しながら、分野や対象、活動形態等に捉われず、あらゆる視点で、日頃からの情報交換や必要な時の連携、協力ができるゆるやかなネットワークづくりに取り組みます。

① 未就学児を対象とした子育て支援に関するネットワークづくり

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	1 回			1 回		1 回
評価指標 (考え方)	未就学児対象の子育て支援団体に対し、情報共有や課題解決等の勉強会や交流の場が目標どおり達成し、かつ、ネットワークができたか。					

② 子どもの居場所に関するネットワークづくり

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (積算)	10 団体			16 団体		20 団体
評価指標 (考え方)	ネットワークに参加する団体が目標どおり達成できたか。					

③ 若者支援に関するネットワークづくり

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	1 回			1 回		1 回
評価指標 (考え方)	若者支援団体との情報共有の場として連絡会を目標どおり開催できたか。また、課題解決に向けたネットワークづくりができたか。					

④ 相談機関等とたすけあい団体のネットワークづくり

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	20 団体			40 団体		60 団体
評価指標 (考え方)	支えあい会議等の情報交換の場に参加する相談機関等の数が、目標どおり（市内各支えあい会議等の参加相談機関の合計）達成できたか。					

⑤ 分野を超えた社会福祉法人のネットワークづくり

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	1 回			1 回		1 回
評価指標 (考え方)	分野を超えた社会福祉法人の連携の場を目標どおり開催できたか。また、課題や情報共有、分野を超えたネットワークづくりができたか					

(5) たすけあいの重層化の推進

地域組織やNPO法人、企業等の様々な日常生活支援活動が共存と協働、連携しあえるしくみづくりに取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	—			20 回		40 回
評価指標 (考え方)	たすけあいサービスとNPO法人、企業等との連携のきっかけとなる研修及びイベントを目標どおり開催したか。					

(6) 支えあい団体を利用しやすい環境づくり

さわやかサービスのあり方を見直し、直接サービスを提供する他、たすけあい活動が、より多くの市民に利用されるよう、積極的に情報提供の窓口としての役割を果たします。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	1,200 件			1,400 件		1,500 件
評価指標 (考え方)	団体からの相談や市民への情報提供、支援への繋ぎ等の相談受付の件数が、目標どおり達成できたか。					

2 新たなしくみや活動づくり

(1) 多様な居場所づくりの推進

様々な分野とコラボレーションしながら、誰もが集えて、多世代が交流できる住民主体の居場所づくりの推進に取り組みます。

	初年度 (2019)	2 年目 (2020)	3 年目 (2021)	4 年目 (2022)	5 年目 (2023)	最終年度 (2024)
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (積算)	260 件			275 件		285 件
評価指標 (考え方)	多様な居場所が目標どおり達成できたか。					

(2) 支えあい活動の推進

地域支えあい推進員と地区担当職員が、一体的に活動し、生活支援体制整備事業として推進するたすけあい活動や高齢者（多世代含む）の通いの場等、支えあい活動の推進に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	たすけあい活動団体や通いの場が目標どおり達成できたか（目標値は、①～③たすけあい活動と④～⑥通いの場ごとに記載）。					

① たすけあい活動（町会エリア）

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
目 標 値 (積算)	39 件			54 件		58 件

② たすけあい活動（コミュニティエリア）

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
目 標 値 (積算)	14 件			18 件		22 件

③ たすけあい活動（複数コミュニティエリア）

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
目 標 値 (積算)	14 件			19 件		20 件

④ 通いの場（月一型）

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
目 標 値 (積算)	196 件			244 件		275 件

⑤ 通いの場（週一型）

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
目 標 値 (積算)	15 件			28 件		37 件

⑥ 通いの場（常設型）

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
目 標 値 (積算)	11 件			13 件		14 件

(3) 見守りのしくみづくりと支援

既存の近隣関係や町会等の防災訓練や要援護者支援のしくみ等を活用、連動した日常的な見守り活動の推進と支援に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (積算)	—			20 件		40 件
評価指標 (考え方)	既存の見守りのしくみと支えあい活動の連携数が、目標どおり達成できたか。					

(4) 効果的な介護予防活動の創造と普及

関係団体と連携し、健康寿命の延伸に効果的な介護予防事業の創造やその普及に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	220 回			230 回		240 回
評価指標 (考え方)	介護予防センター（ほのぼのプラザますお・いきいきプラザ）で開催する介護予防講座（民間団体主催含む）が目標どおり達成できたか。					

(5) 新たな福祉課題へのモデル的な活動の実施

新たな福祉課題（現代的な課題等）に対応するため、課題に応じた支援体制（ゆるやかな連携等）やモデル的な活動、しくみづくりに取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	検討	⇒	実施	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	—			1 件		1 件
評価指標 (考え方)	新たな福祉課題を抽出し、体制づくりや活動ができたかどうか。					

(6) 空き家の活用等に関する研究

市の空き家対策の状況を踏まえながら、空き家の有効活用やそのしくみづくりについて研究します。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	検討	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	市の空き家対策や全国的な動向を踏まえ、空き家活用の研究ができたか。また、何らかの取り組みに結びついたか。					

(7) 子育て支援拠点の充実

イベントや講座等の充実による居心地の良い居場所づくりや出張相談等の相談業務の実施等、子育て支援拠点の充実に取り組みます。また、災害時にできるはぐはぐ広場での親子への支援等の検討を進めます。

① 居心地の良い居場所づくりと相談支援体制の充実

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	利用者のニーズに応じた講座の実施と相談しやすい環境をつくること ができたか。また、利用者支援事業は出張相談等も含め、相談体制の 充実と地域と連携を図る取り組みができたか。					

② 災害時の親子（未就学児とその親）への支援

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	2 回			2 回		2 回
評価指標 (考え方)	災害時一次帰宅困難親子への待機場所としての整備ができたか。また、 災害時対応マニュアルに沿い、利用者を交えた避難訓練が目標どおり 実施できたか。					

(8) 成年後見制度の利用促進

成年後見制度利用促進法に基づき、柏市や職能団体等と連携し、かしわ福祉権利擁護センターにおける成年後見制度の利用促進に積極的取り組みます。

また、制度の普及啓発や相談窓口の設置等により、潜在的な対象者の早期発見から支援までのしくみづくりに取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	検討	⇒	実施	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	成年後見制度利用促進法に基づく全体構想の整理やかしわ福祉権利擁 護センターの位置づけや役割を明確化し、新たな展開ができたか。					

(9) 日常的な活動等に障害者も参加できる環境づくり

障害者を対象とした活動ではなく、日常的な様々な活動や場面の中に、障害者が自然と活動、参加できる工夫や環境づくりに取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	1 回			2 回		2 回
評価指標 (考え方)	普及、勉強会、人材育成（サポーター）の理解促進に関わる取り組み （回数）を目標どおり実施できたか。日常的なあらゆる場面で障害者 が自然と参加できる環境ができたか。					

3 人材の育成や活用、支援

(1) 我が事意識の醸成に向けた福祉教育の推進

我が事意識の醸成を目指し、世代に応じた福祉教育を展開します。また、児童・生徒に対しては、啓発チラシやボランティア体験等、夏休み期間を活用した福祉事業の充実に取り組みます。

	初年度 (2019)	2 年目 (2020)	3 年目 (2021)	4 年目 (2022)	5 年目 (2023)	最終年度 (2024)
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	600 人			600 人		600 人
評価指標 (考え方)	夏ボラ（夏季ボランティア体験）の参加者が目標どおり達成できたか。					

(2) ボランティアコーディネート機能の充実

依頼者と活動者をつなぐコーディネートの効率化と実践を通じた量・質を兼ね備えたコーディネートに取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	480 件			480 件		480 件
評価指標 (考え方)	ボランティアコーディネート件数が目標どおり達成できたか。					

(3) 活動の場までつなぐ人材の育成

活動の場へのコーディネートまでを含めた人材育成（講座）・相談支援に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	5 講座			10 講座		10 講座
評価指標 (考え方)	体験等を含む人材育成（講座）の回数が目標どおり実施したか。					

(4) プロボノの研究

各分野の専門家が、職業上持つ知識やスキル、経験を活かし社会貢献するボランティア活動（＝プロボノ）を研究します。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	検討	⇒	実施	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (積算)	—			100 人		200 人
評価指標 (考え方)	職業や経験による専門技術を活かしたボランティア登録者数が、目標どおり達成できたか。					

(5) ニーズに応じた人材の育成と確保、活動支援

福祉教育や支援の担い手等、ニーズに応じた人材育成や活動者、担い手の確保、活動支援に取り組みます。また、ボランティアセンターの個人ボランティア登録者に対し、定期的な情報提供を行う等、活動の活性化に取り組みます。

① 福祉教育ボランティアの育成と活動支援

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (積算)	30 人			30 人		30 人
評価指標 (考え方)	福祉教育ボランティアの登録数が、目標どおり達成できたか。					

② 災害時に動けるボランティアの育成と確保

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (積算)	72 人			77 人		87 人
評価指標 (考え方)	災害ボランティアコーディネーターの登録数が、目標どおり達成できたか。					

③ 生活支援員の育成と確保

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (積算)	45 人			55 人		65 人
評価指標 (考え方)	日常生活自立支援事業で、高齢者や障害者を支援する生活支援員を養成講座等を実施して育成・確保し、目標どおり達成できたか。					

④ 市民後見人の養成・育成と活動支援

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (積算)	25 人	31 人		41 人		51 人
評価指標 (考え方)	継続的に市民後見人の養成や育成を行い、市民後見人候補者を目標どおり養成できたか。また、修了者に対しフォローアップができたか。					

⑤ 後見支援員の活動の場の提供と拡充

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (積算)	15 人			30 人		40 人
評価指標 (考え方)	後見支援員として、法人後見の事務執行者や幅広い普及啓発活動等の取り組みが目標（延活動者数）どおり達成できたか。					

⑥ さわやかサービス協力会員の確保

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (積算)	170 人			230 人		250 人
評価指標 (考え方)	協力会員数が、目標どおり達成できたか。					

⑦ 柏市訪問型生活支援サポーター（かじサポ）の養成

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (積算)	310 人			430 人		510 人
評価指標 (考え方)	柏市訪問型生活支援サポーター（かじサポ）の登録数が目標どおり達成できたか。					

⑧ ファミリー・サポート・センター協力会員・両方会員の確保

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (積算)	400 人			490 人		550 人
評価指標 (考え方)	安定したサービスが提供できるように、地域に隔たりなく協力会員・両方会員が目標値どおり確保できたか。					

⑨ 個人ボランティア登録者の増加

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (積算)	1,000 人			1,120 人		1,200 人
評価指標 (考え方)	個人ボランティアの登録数が目標どおり達成できたか。					

(6) モデル活動の実施と「地域づくり」との連動

地域いきいきセンター等で実施したモデル的な成功事例を、ボランティアセンターや地区担当職員等と連動して、地域全体への拡大に向けて取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	1 事例			1 事例		1 事例
評価指標 (考え方)	毎年度、モデル的な取り組みを実施できたか。					

(7) 介護予防を通じた地域活動の支援

ほのぼのプラザでの介護予防のノウハウを生かし、地区担当職員と連携し、地域に出向き、地域の繋がりやサロン活動の充実に役立つ出前講座や人材育成等に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	120 回			140 回		160 回
評価指標 (考え方)	サロン等の地域活動支援と介護予防の普及啓発のため「フレイル予防・健康づくり出前講座」が、目標値どおり計画的に実施できたか。					

4 生活課題解決への取り組み

(1) 総合相談（貸付等）を窓口とした生活課題解決へのアプローチ

総合相談（貸付等）をきっかけに、相談者が抱える複合的な福祉課題の整理や制度・専門相談機関等へのつなぎ等、課題解決に向けた支援に取り組みます。

	初年度 (2019)	2 年目 (2020)	3 年目 (2021)	4 年目 (2022)	5 年目 (2023)	最終年度 (2024)
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	80 件			120 件		130 件
評価指標 (考え方)	複合的な課題を抱える相談者の課題を整理できたか。また、必要な支援機関や制度につなぐ支援が目標どおりできたか。					

(2) 相談の集約と分析による新たな福祉課題への対応

社協の各相談窓口に寄せられた相談や生活課題を集約・分析し、新たな福祉課題等の整理や解決、対応等に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	各相談窓口の相談実績を集約できたか。また、それらの相談内容を分析し、課題の整理等ができたか。解決や対応に結びつけられたか。					

(3) 複合的な福祉課題解決への連携と支援

相談支援機関等が複合的な福祉課題の解決に取り組む際、総合相談や地域いきいきセンター等がその特徴やノウハウを活かし、分野を越えた横断的な支援体制の構築や課題解決への支援に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	—			9 回		11 回
評価指標 (考え方)	複合的な福祉課題の解決に向けて、相談支援機関と連携して、分野を越えた検討の場が目標どおり実施できたか。					

(4) 福祉サービス利用援助事業の速やかな利用に向けた体制づくり

速やかな訪問調査や契約判断を行える体制づくりを進め、支援が必要な利用者の速やかな制度利用に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	支援員の確保や資質向上を図り、利用希望者を待たせることなく、専門員が訪問調査等へ行くことができる環境を整備できたか。					

(5) 権利擁護の切れ目ない支援

元気なうちから亡くなるまでを意識した継続的な支援体制の構築を目指し、任意後見や死後事務等に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	切れ目ない支援体制の新たな手法やしくみづくりができたか。					

(6) 介護予防事業の効果的な実施

市全域を意識し、市民に身近な会場（公共施設等）で介護予防事業（出張講座等）を実施します。また、ほのぼのプラザと老人福祉センターの連携を強化し、老人福祉センターにおける介護予防の充実や情報提供に取り組みます。

① 介護予防センター以外での介護予防事業の実施

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	50 回			60 回		70 回
評価指標 (考え方)	介護予防講座に参加しやすく市内全域での介護予防の普及啓発を図るため、公共施設等を利用した講座開催が目標どおり実施されたか。					

② 老人福祉センターにおける効果的な介護予防の実施

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	500 人			800 人		1,000 人
評価指標 (考え方)	介護予防機能を有した事業展開を行っているか。また、介護予防に係る講座等を拡充し、目標にある参加人数を達成できたか。					

(7) 新たな子ども・子育て支援（預かり事業）の実施

一時預かり事業（ぞうさんルーム）の拡充や保護者の緊急時に、子どもを預かる体制づくりに取り組みます。

① 一時預かり事業（ぞうさんルーム）の拡充

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	190 人			210 人		210 人
評価指標 (考え方)	保護者のリフレッシュを目的とした一時預かり事業ができているか。年間の利用者が最大定員の 80%（目標値）を超えているか。					

② 保護者の緊急時の子どもの預かりの体制づくり

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	施設・人材等の整備を図り、利用者のニーズに応えた預かり体制が検討できたか。また、実施することができたか。					

(8) 移動困難者への支援

高齢者や障害者等の移動困難者に対し、通院や社会参加（サロン参加等）等の日常生活における移動支援に取り組みます。

福祉有償運送の安定的な実施（こらくだくん）

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	6,500 件			6,800 件		7,000 件
評価指標 (考え方)	年間の利用総件数が目標どおり達成されたか。また、伸び数や利用目的・用途の傾向分析を行っているか。					

(9) 地域組織との連携による地域包括ケアシステムのモデル展開と普及

沼南圏域から地域組織や地元住民等の協力と連携のある個別ケアの支援体制（地域包括ケアシステム）のモデル的な展開と普及に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	1 ヶ所			2 ヶ所		3 ヶ所
評価指標 (考え方)	地域組織・住民と連携をした個別ケア支援体制を、他の包括支援センターや団体等へ目標どおり展開、普及できたか。					

5 情報発信・普及啓発

(1) 地域共生社会の普及啓発

市民一人ひとりがあらゆる生活課題に取り組む“我が事”の意識等「地域共生社会」の考え方や活動について、その普及啓発に取り組みます。

	初年度 (2019)	2 年目 (2020)	3 年目 (2021)	4 年目 (2022)	5 年目 (2023)	最終年度 (2024)
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	活動計画の内容や我が事・丸ごとの地域共生社会の考え方等について、ホームページやイベント、講座・会議等の場で数多くPRをできたか。					

(2) 福祉課題の社会化（見える化）

社協に寄せられた相談内容の分析結果や福祉課題等を市民や関係機関等に発信し、地域で起きている福祉課題の社会化（見える化）に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	1 回			1 回		1 回
評価指標 (考え方)	市民や関係機関等に対して、地域で起きている福祉課題を見える化し、目標どおり発信できたか。					

(3) 全世代を対象とした意思決定支援の普及啓発と実施

子どもから高齢者、障害の有無を問わず活用できるわたしの望みノートを目指します。また、介護や医療、死後等に関し、本人が意思を伝えられない時に伝える手段として意思決定支援の必要性の普及啓発と作成機会の提供に取り組みます。

① わたしの望みノートの改訂

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	検討	⇒	実施	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	出前講座やモニタリング等で、収集した意見や意思決定に関わる国や柏市の方向性を踏まえ、改訂できたか。					

② 全世代に対する意思決定支援に関する普及啓発

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	—			200 人		250 人
評価指標 (考え方)	出前講座や研修会等で、意思決定支援に関する普及啓発と作成機会の提供ができたか。					

(4) 障害者のスポーツを通じた理解促進

障害者のスポーツとの連携等、新たに福祉以外の切り口から障害理解の促進に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	1 回			2 回		2 回
評価指標 (考え方)	スポーツを切り口とした障害理解の促進に関わる取り組みを目標どおり実施したか。					

(5) 寄附文化の醸成

様々な寄附や活動助成等の方法について、広く市民に普及啓発を行い、寄附文化の醸成や新たな活動助成金の獲得方法等の普及啓発に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	様々な寄附の方法やファンドレイジング等の助成金獲得等の情報について、普及啓発ができたか。					

社協発展・強化計画

I 社協発展・強化計画とは

1 社協発展・強化計画とは

(1) 社協発展・強化計画とは

社協発展・強化計画とは、市社協の使命や経営理念等を明確にし、地域福祉を推進する上での経営や組織基盤をどう整備するかを4つの視点（戦略）により計画化するものです。

① 拠点戦略

拠点の維持・確保等に向けた取り組み

② 人事戦略

人事サイクルマネジメントに基づく取り組み

③ 運営戦略

機能的な組織運営等に向けた取り組み

④ 財政戦略

財政基盤の安定化等に向けた取り組み

2 策定の背景

市社協は、社会福祉法において「地域福祉を推進することを目的とする団体」として法的に位置づけられ、期待と責務の中で長年に渡り地域福祉の推進に努めてきました。しかし、近年では、近隣関係の希薄化等による地域基盤の弱体化や地域福祉活動を組織的に実施するNPO法人や介護保険事業者等の台頭等、市社協を取り巻く環境は、年々変化し、期待と同時にその存在意義も問われています。

一方で、地域における生活課題は、複雑多様化し、公的サービスだけでは対応できない状況にあります。また、それら課題解決には、地域包括ケアシステムにみるように、あらゆる関係団体や市民が連携、協力してその解決に取り組む必要があります。

このような状況の中で、市社協は、今こそ「市民参加による事業展開」と「関係機関等で構成された協議体」という強みを活かし、より一層「地域福祉の推進」に貢献していかなければなりません。

すなわち、市民や地域のニーズを的確に把握し、地域福祉を推進する専門集団として、新たなしくみやサービスを生み出す開拓者として、そして、地域福祉の指南役として、広く市民や関係機関の信頼と協力を得られる組織づくりと事業展開を戦略的・計画的に取り組むことが必要となっています。

Ⅱ 社協の使命と経営理念

1 社協の使命

地域福祉を推進する中核的な団体として

誰もが安心して暮らすことのできる健康福祉のまちづくりの推進

2 経営理念

(1) 地域の健康福祉ニーズに基づく事業や先駆的な取り組みへのたゆみない挑戦

多様化する福祉ニーズや制度の狭間にある福祉課題等に対し、住民や関係機関と連携し、その解決に向けた先駆的な取り組みへのたゆみない挑戦を続けます。

(2) 住民参加・協働による健康福祉社会の実現

住民、民生委員児童委員、柏市民健康づくり推進員、市民活動団体、社会福祉法人等、地域に関わる市民、団体、組織と連携し、住民参加・協働による福祉社会の実現を目指します。

(3) 地域に根ざした利用者本位の健康福祉サービスと総合相談支援体制の実現

地域に根ざした利用者本位の福祉サービスの提供や自立、社会参加の促進、支援等により、誰もが尊厳を持ち地域社会の一員として生活できる地域を目指します。また、住民、関係機関等と連携し、身近な相談窓口や専門相談、あらゆる相談ニーズへの対応等、相談から支援まで一貫した総合相談支援体制を目指します。

3 組織運営方針

(1) 地域に開かれた組織づくり

運営の透明性と中立性、公正さの確保、情報公開や説明責任を果たします。

(2) 住民参加と専門性の確保

事業の展開にあっては、住民参加の徹底と職員の専門性をもって取り組みます。

(3) 事業評価を踏まえた効果的・効率的な経営

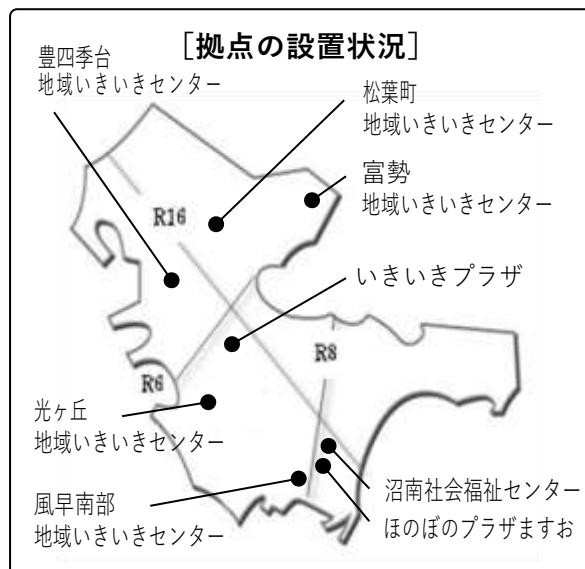
事業評価を適切に行い、効果的で効率的な自立した経営を目指します。

(4) 法令順守

全ての役職員は、高潔な理論を保持し、法令を遵守します。

Ⅲ 社協発展・強化計画（4つの戦略）

1 拠点戦略



第3期では、「地域いきいきセンターの設置拡大」と「沼南社会福祉センターにおける子ども・子育て支援の充実」について取り組みました。この間、豊四季台と富勢に新たな地域いきいきセンターを設置しました。また、沼南社会福祉センターに子ども・子育て関連事業（地域子育て支援拠点や利用支援事業、ファミリー・サポート・センター）の集約とスペースの拡張を図り、相談支援の円滑な実施と連携強化、利用者拡大を図りました。さらに沼南社会福祉センターは、大規模修繕を実施しました。

第4期では、引き続き『**地域いきいきセンターの更なる設置拡大と機能強化**』を図るとともに、事業規模拡大に伴う職員数の増加等を踏まえながら『**事務所機能のあり方と施設の確保**』に取り組み、安定した拠点の確保と整備に努めます。

(1) 新たな地域いきいきセンターの設置

市と協議の上、市民の身近な相談窓口や地域活動支援、ネットワークづくり等の拠点となる地域いきいきセンターの計画的な設置に取り組みます。

	初年度 (2019)	2 年目 (2020)	3 年目 (2021)	4 年目 (2022)	5 年目 (2023)	最終年度 (2024)
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (積算)	6 ヶ所			9 ヶ所		11 ヶ所
評価指標 (考え方)	目標どおり、地域いきいきセンターを計画的に設置できたか。					

(2) 災害時、はぐはぐひろば沼南利用者への一時避難体制の整備

はぐはぐひろば沼南開設時に災害が起きた際、帰宅に不安を感じる利用者等を沼南社会福祉センターで一時避難するための体制整備に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	災害時にはぐはぐひろば沼南利用者に対し、一時避難等ができる体制が整い、毎年度その体制が引き継がれているか。					

(3) 沼南社会福祉センターの維持管理及び機能の充実

沼南社会福祉センターの修繕計画等に基づく計画的な維持管理の徹底と、市民が利用しやすいセンターを目指し、センター機能の充実に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
目 標 値 (単年)	13,000 人			14,500 人		15,500 人
評価指標 (考え方)	沼南社会福祉センターの修繕計画に基づき修繕等が行われたか。また、来館者を目標どおり達成できたかどうか。					

(4) 沼南社会福祉センターの全世代型施設への強化

子育て支援拠点や移動サービス、地域包括支援センター、ボランティア活動室等、あらゆる市民を対象とした施設である沼南社会福祉センターを、全世代型の施設として、その機能強化に取り組みます。

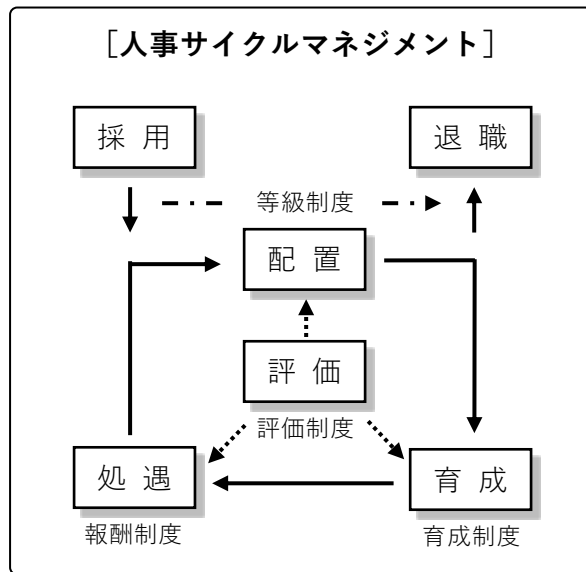
	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	多様な世代や活動者が利用するセンターとして、様々な整備や機能強化、取り組みができたか。					

(5) 事務所機能のあり方の検討と事務所施設の確保

ボランティアセンター設置場所や事業規模の拡大、職員数の増加等を踏まえ、機能的な事務所機能のあり方の検討と事務所施設の確保に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	検討	⇒	実施	－	－	－
評価指標 (考え方)	将来的な方向性も踏まえた事務所機能のあり方についての考え方がまとめられたか。また、必要な施設が確保できたか。					

2 人事戦略



第3期では、「人材育成と管理」「適正な職員構成への対応」について、取り組みました。この間、人材育成では、研修の体系化や内部研修の定期化、資格取得支援や提案型視察研修等の制度化を図り、資格取得と資質向上に取り組みました。

人事管理では、評価制度の見直しを図り、人事評価に基づく昇給や賞与への反映を図りました。また、適正な職員構成では、人事・財政に係る基本方針に基づく職員採用や採用試験の早期実施等により、定期的な人事採用と優秀な人材の確保に努めました。

第4期では、引き続き人事サイクルマネジメントを軸に、『職員の適正定数の確保と適正配置』への取り組みを継続します。また、地域いきいきセンターの拡大等に伴う『人材の確保』や職員の更なる『専門性の向上』に努めます。また、適正な評価制度や働き方改革等を踏まえた『労働環境の整備』や『障害者雇用の推進』等、機能的な人事管理体制の構築と働きやすい職場環境の整備に努めます。

(1) 人事採用計画に基づく職員定数の適正化と計画的な職員採用〔採用〕

事業規模や業務量、職員の年齢構成等を踏まえ、人事採用計画の見直しを図るとともに、計画的な人事採用により、職員の適正定数確保に取り組みます。

	初年度 (2019)	2年目 (2020)	3年目 (2021)	4年目 (2022)	5年目 (2023)	最終年度 (2024)
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	人事採用計画に基づき、計画的に人事採用ができたか。また、職員の適正定数の確保ができたか。					

(2) 体系的な人材育成による職員の専門性の向上と資質の確保〔育成〕

人材育成・研修体系基本方針に基づき、OJT(職務内)、OFF-JT(職務外)、SDS(自己啓発援助制度)の視点から人材育成を行い、職員の専門性の向上と職務職階に必要な資質の確保に取り組みます。

	初年度	2年目	3年目	4年目	5年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	基本方針に基づく人材育成を実施できたか。また、資格取得や研修への積極的な参加等により、資質向上が図られているか。					

(3) 明確な評価制度と処遇等への適正な反映〔評価と処遇、配置〕

明確な人事考課制度と基準に基づく評価、評価結果の処遇への適正な反映等により、適正な人事管理や配置、職員の就業意欲の向上に取り組めます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	人事考課制度が正しく運用され、評価結果が職員の昇給昇格や各種処遇等にしっかりと反映されているか。					

(4) 障害者雇用の推進〔採用〕

障害者とその能力を発揮できる職場環境の整備と職員の意識改革を図る等、障害者雇用の推進に取り組めます。

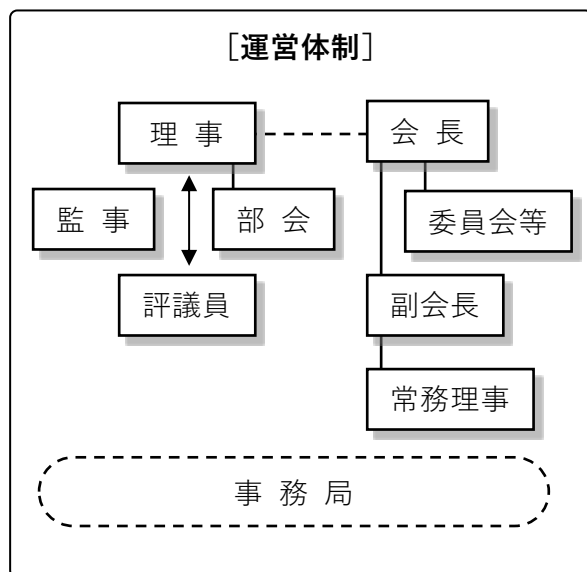
	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	障害者の法定雇用率を超える雇用や障害者就労への協力等、障害者雇用の推進に取り組めているか。					

(5) 働きやすい職場環境の整備による長期雇用の実現〔処遇〕

働きやすい職場環境や福利厚生等の充実を図り、職員の長期雇用を実現し、安定した組織運営や福祉サービスの提供、地域福祉活動の支援に取り組めます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	職員の離職率を抑え、安定した組織運営が図られているかどうか。また、職員が働きやすい環境が整っているか。					

3 運営戦略



第3期では、「災害時の体制整備」「効率的な組織編成」「効果的な事業展開」に取り組みました。災害対策基金の創設や災害ボランティアセンター設置訓練等、災害時の体制整備を図りました。組織編成や事業展開では、社会福祉法人改革等を踏まえた役員の機能強化や定款変更、役員定数や報酬等の見直しを検討し進めています。その他、社会福祉法人との意見交換会や市担当課との調整会議の定例化等に取り組みました。なお、予算ヒヤリング等によるコスト削減や効率的な事業展開等は、第2期より継続しています。

第4期では、引き続き『効率的な組織編成や効果的な事業展開』に取り組むとともに、『組織の運営体制（理事会、評議員会）の機能強化』を図り、強い組織づくりに努めます。また、個人情報保護や財務会計チェック機能の強化等の『コンプライアンスやガバナンスの強化』にも努めます。

(1) 役員・評議員の機能強化

定数や選出区分の見直し等を行い、理事会や評議員会の活性化と環境整備を図り、執行・議決機関としての機能強化に取り組めます。

	初年度 (2019)	2 年目 (2020)	3 年目 (2021)	4 年目 (2022)	5 年目 (2023)	最終年度 (2024)
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	活発な議論が交わされる理事会、評議員会になっているか。また、機能強化に向けた取り組みが行われているか。					

(2) 市社協の認知度向上と理解者の拡大

既存のPR媒体の定期的な見直しや新たな広報媒体の活用、対象を意識した普及啓発活動等により、市社協の認知度向上や理解者の拡大に取り組めます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	情報紙やホームページ等のPR媒体が定期的に見直しや更新されているか。また、市社協PRに職員が日々取り組んでいるか。					

(3) 災害時の体制整備

災害時、利用者の安否確認や災害ボランティアセンター設置等を速やかに行えるように職員参集や設置訓練等を実施し、災害時の体制整備に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	定期的な訓練やマニュアル等の見直しが行われているか。また、組織的な体制の整備と災害時の動きを職員が身につけたか。					

(4) 社会福祉法人等との連携強化

協議体や中間組織としての機能を活かし、社会福祉法人等とのネットワーク形成や連携を図りながら機能的な法人運営や効果的な事業展開に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	社会福祉法人をはじめとする多くの機関や団体等の社会資源と連携や協働をしながら組織運営や事業展開ができていくか。					

(5) 機能的な事務局組織体制の構築

組織と事業規模が拡大する中で、スピード感のある意思決定や組織運営が行える機能的な事務局組織体制の構築に取り組みます。また今後、A I（人工知能）※1等の新たな技術を活用した事務の効率化等の検討も行います。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	検討	⇒	実施	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	社協らしい柔軟性とスピード感のある意思決定や組織運営ができる組織体制が構築できているか。					

※1 A I（人工知能）とは、人が考えて行うような知的な作業を、コンピュータ等のソフトウェアやシステムが代わりに行えるようなしくみ。

(6) 市との連携強化

事業担当者間の課題解決や懸案事項の調整、合意形成等を目的とした会議等を開催し、市との連携強化に取り組みます。

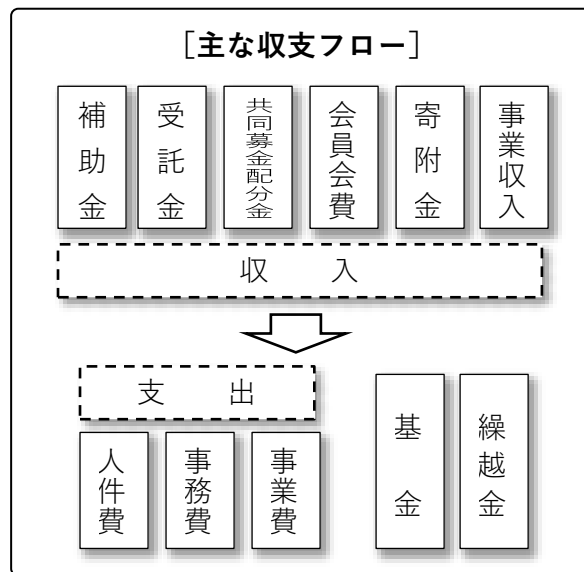
	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	市関係各課とどれだけ協議の場やネットワークが形成できているか。また、社協や事業への理解と協力関係がどれだけ構築されているか。					

(7) 個人情報保護や財務会計のチェック体制の強化

個人情報の保護や財務会計のチェック体制の強化等、法人としてのコンプライアンスやガバナンスの強化に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	法人として個人情報の保護や財務会計のチェック体制などがしっかりと構築されているか。					

4 財政戦略



第3期では、「民間財源の獲得と活用」「財源の確保と支出抑制」「安定的な補助金の確保」等の財政基盤の安定に取り組みました。民間助成情報の収集や発信、特別会員の口座引落しの導入と拡大の他、セーフティーネット基金等の各種基金を創設し、活用方法を明確した寄附のしくみを構築する等、さらなる財源確保に取り組みました。

一方で、時間外勤務の見直しや一部手当の改正、給料計算の委託、勤怠管理システムの導入、予算ヒヤリングの実施等、コスト削減と効率化、職員のコスト意識の徹底に取り組みました。

第4期では、引き続き『財源確保と支出抑制』に努めるとともに、会費や寄附の拡充等の『自主財源の確保』に努めます。

(1) 会員会費制度の見直しと会員確保

会費の安定財源化を目指し、会員会費制度の見直しとPRの強化、使途の明確化（充当先の整理）等を図り、会員確保と会費拡充に取り組みます。

	初年度 (2019)	2年目 (2020)	3年目 (2021)	4年目 (2022)	5年目 (2023)	最終年度 (2024)
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	会員会費制度への理解が図られ、安定収入として見込めるか。また、会費の使途を明確にし、有効活用されているか。					

(2) 寄附文化の醸成と寄附者の拡大

市民が寄附したいと思える寄附制度の構築と市民一人ひとりに届くPRや寄附者への実績報告等により、寄附文化の醸成と寄附者の拡大に取り組みます。

	初年度	2年目	3年目	4年目	5年目	最終年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	市民にわかりやすく、寄附をしたいと思われる寄附制度ができているか。また、寄附者の拡大につながっているか。					

(3) 物品寄附の有効活用に向けたしくみづくり

受領した物品を市内の社会福祉法人等で有効に活用してもらえるネットワークの構築やしきみづくりに取り組みます。

	初年度	2年目	3年目	4年目	5年目	最終年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	物品寄附を活かすことのできるネットワークやしきみが構築できたか。また、実際に物品寄附を有効に活用できたか。					

(4) 新たな財源獲得に向けた収益事業の検討

自主財源の更なる獲得に向け、新たな収益事業の実施に向けて取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	検討	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	新たな財源獲得手段としてのしくみや収益事業を実際に展開することができたか。					

(5) 共同募金の効果的・機能的な配分

共同募金配分委員会での活発な議論を通じ、共同募金財源の地域活動への効果的・機能的な配分に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	検討	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	共同募金財源を地域活動に効果的・機能的に配分できているか。					

(6) 適正な予算編成と配分

財政に係る基本方針に基づき、各事業の経費に対して最も適した収入財源を充当する等、収入と支出の関係性を踏まえ、市民や市から理解を得られる適正な予算編成と配分に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	財政に係る基本方針が見直されているかどうか。収入財源の意味や位置づけを踏まえた予算編成と配分ができているか。また、市民や市から理解が得られる内容か。					

(7) コスト意識の徹底と財源の有効活用

限られた財源を有効に活用し、法人運営や各事業を効果的、安定的に実施するために、職員にコスト意識を徹底させ、無駄のない財源活用に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	効果的で効率的な予算編成が出来ているかどうか。職員一人ひとりがコスト意識を持ち、日々業務に取り組んでいるか。					

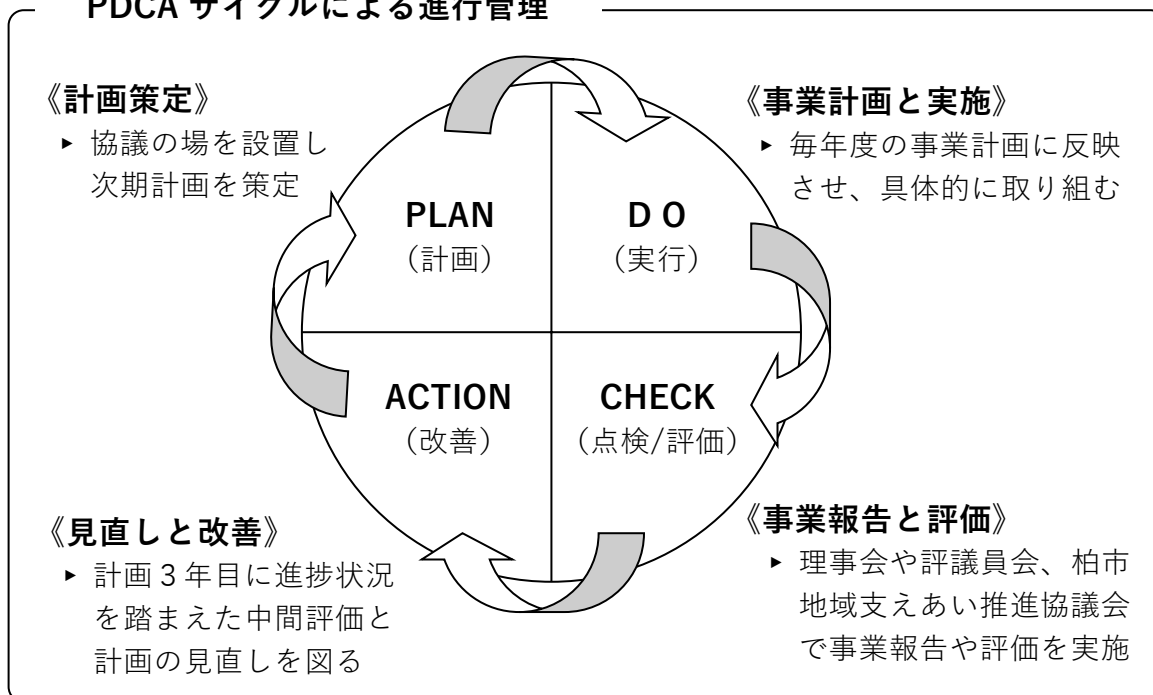
(8) 遺贈による寄附のしくみづくり

遺言等による遺贈への気持ちに応えるべく、遺贈による寄附受付のしくみづくりや新たな民間財源として有効活用できる方法の確立に取り組みます。

	初年度	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	最終年度
実施年度	検討	実施	⇒	⇒	⇒	⇒
評価指標 (考え方)	遺贈による寄附受付のしくみができたかどうか。また、遺贈者の気持ちに応えられる寄附金等の有効活用が出来ているか。					

IV 取り組みの推進と評価

PDCA サイクルによる進行管理



(1) PDCA サイクルによる進行管理

「社協アクションプラン」と「社協発展・強化計画」を着実に推進し、成果をあげるためにPDCAサイクルの考え方にに基づき、計画の進行管理を行います。

(2) 内部検証と評価による推進

主管者会議やリーダー会議等の協議の場において、計画の取り組み状況の共有や課題解決のための協議等を行い、効果的な計画の推進を行います。

(3) 年次計画や報告への反映と理事、評議員による報告・評価

計画の内容は、毎年度の事業計画へ反映させ、着実な推進を図ります。また、取り組みの実績や成果等は、柏市支えあい推進協議会で点検、評価を行うとともに、毎年度の事業報告にまとめ、理事会や評議員会等の場において、報告と評価を行います。

(4) 取り組み状況の公表

計画の進捗状況や取り組みの内容等は、地域福祉の情報紙やホームページ等により広く市民に公表します。

(5) 柏市地域健康福祉計画（行政計画）との連携

柏市地域健康福祉計画（行政計画）との一体的な推進を図るため、柏市担当部署と、計画の取り組み状況の共有や連携等を行います。

地区別計画

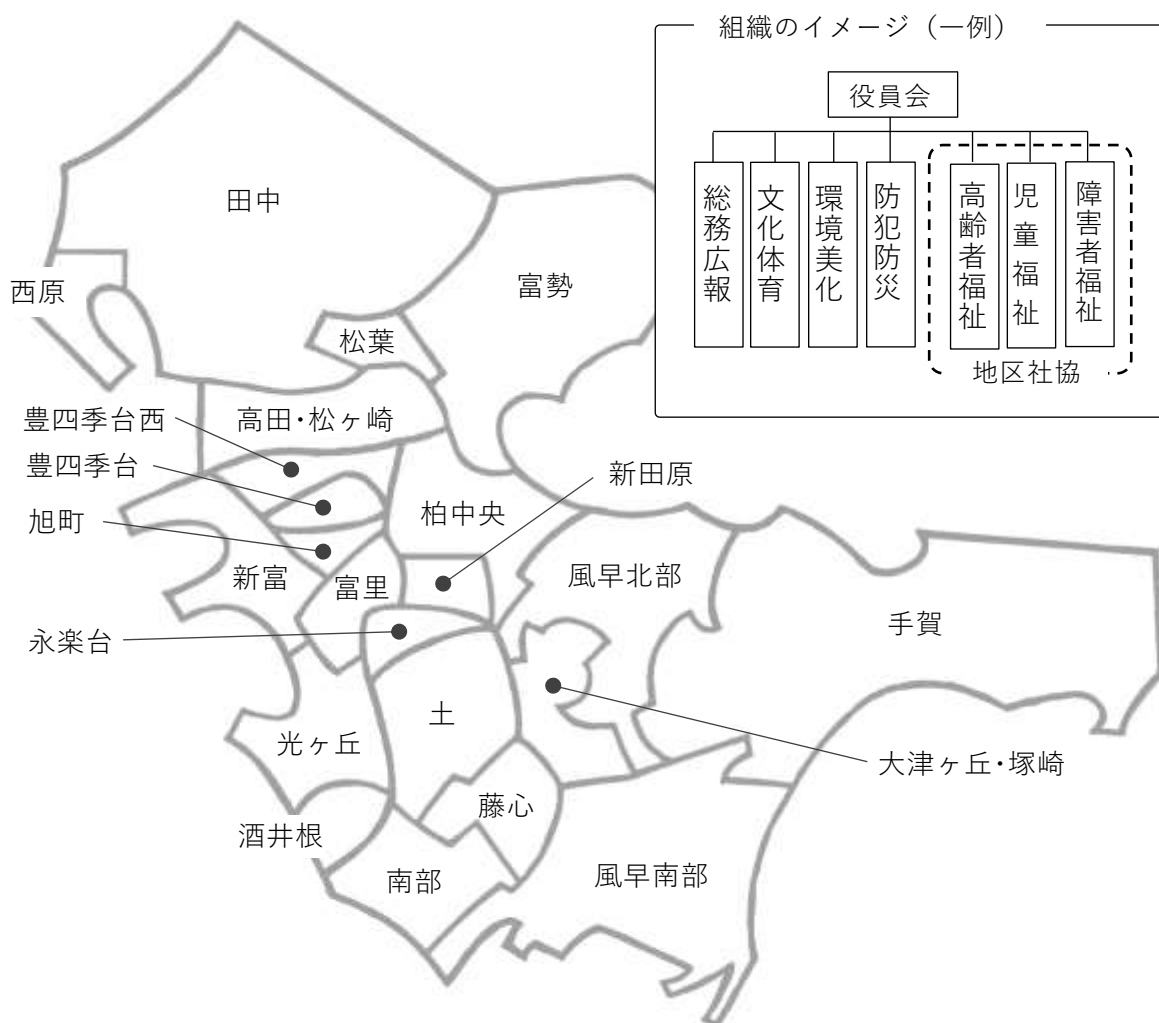
I 地区社会福祉協議会とは

1 地区社会福祉協議会とは

地区社会福祉協議会は、「地区社協」と称され、より身近な地域における住民同士の支えあいや助けあいを推進していくことを目的とした組織です。地区社協は、市社協が地域福祉の推進組織として、柏市内22地区に設置しています。現在、柏市がコミュニティエリアごとに設置している「ふるさと協議会（ふる協）」の福祉分野を担う組織として位置付けられ、活動を行っています。

※ 上記のことから、次頁より「ふる協（地区社協）」と記載します。

[地区社会福祉協議会の設置状況]



※ 田中地区は、コミュニティエリアの分割が予定されていますが、現時点では、現状のまま記載しています。

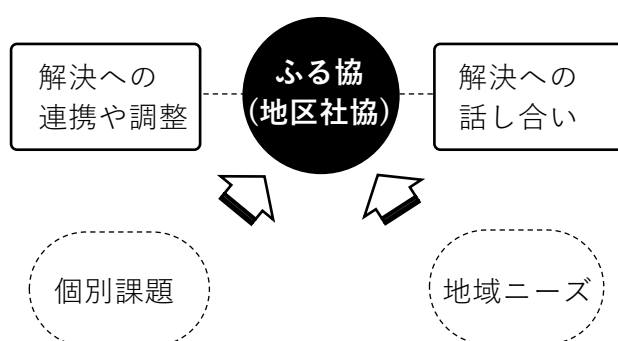
Ⅱ 役割と取り組みの柱

1 役割

“ 個別課題や地域ニーズを発見し、その解決を目指す ”

住民個々の課題を
地域の課題として
捉える動き

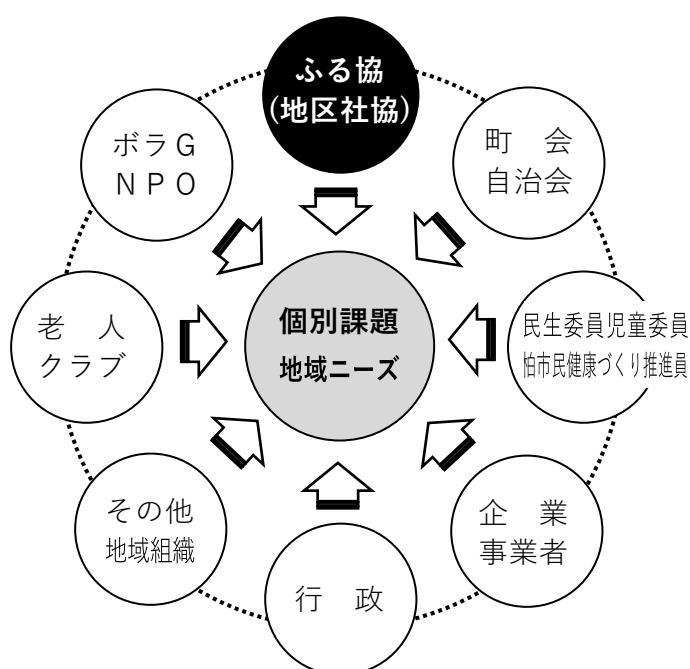
支えあいや助けあ
いの仕組みづくり



ふる協（地区社協）は、地域住民の身近な存在であり、地区内の地域福祉を推進する中心的な組織です。

ふる協（地区社協）は、「住民個々の生活上の福祉課題や地域ニーズを発見」しながら、その課題やニーズを地域の問題として捉え「支えあいや助けあいの仕組みづくり」を行い、その解決を目指す重要な役割を担います。

“地域の力を結集し、地域福祉を推進するコーディネート役”



ふる協（地区社協）は、地域のあらゆる活動者や団体、組織等とネットワークを持ち、地区内の地域福祉を推進する中心的な組織です。

ふる協（地区社協）は、地域の力を結集すべく「様々な活動者や組織をつなぎ、新たな連携を生み、協力して生活福祉課題の解決や地域ニーズに応えるコーディネート役」としての重要な役割を担います。

2 取り組みの柱

“日常生活のさまざまな課題を地域全体の力を活かして解決する”

(1) 住民一人ひとりの生活課題や地域ニーズを発見、把握する

ふる協（地区社協）の活動や地域全体の取り組みを考える上で、とても大切な住民一人ひとりの生活課題や地域ニーズの発見と把握を行います。

[活動例]

- ▶ 地区懇談会（住民・団体参加型）
- ▶ アンケート（講座・イベント）
- ▶ ニーズ調査（数年に1度）

(2) 世代を問わず、一人ひとりの生活課題や悩みを地域全体で解決する

高齢者や障害者以外にも、若者・子育て世代等でも生活課題や悩みを抱えています。一人ひとりの課題を地域の課題として捉え、その解決を図ります。

[活動例]

- ▶ なんでも相談窓口の開設
- ▶ 関係者や団体との課題共有
- ▶ 連携による支援体制の構築

(3) 担い手の育成やさまざまな活動者、団体との連携や協力関係づくり

ふる協（地区社協）の運営や各種事業の協力者、支援の担い手を育成します。
また、分野を超えたさまざまな活動者や団体との連携や協力関係を築きます。

[活動例]

- ▶ 受け皿のある担い手の育成
- ▶ 課題解決に共に取り組む
- ▶ 交流会や情報交換会の開催

(4) ふる協（地区社協）の認知度向上

ふる協（地区社協）の活動や協力者、事業への参加者を増やし、更なる活動の充実に向け、地区におけるふる協（地区社協）の積極的な認知度向上を行います。

[活動例]

- ▶ 魅力的な広報紙や事業展開
- ▶ SNS等の活用と発信
- ▶ 各種団体を巻き込む活動

(5) 効率・効果的な組織運営や事業展開、ニーズに沿った活動への転換

限りある人材や資源を最大限に活かす組織運営や事業の効率化を図ります。
また、ニーズを踏まえた事業の見直しや新規事業への転換を行います。

[活動例]

- ▶ 他団体と協働で事業を開催
- ▶ ただ続けてきた事業の廃止
- ▶ 調査結果に基づく新たな事業

3 ふる協（地区社協）の活動

地域住民が自ら企画・立案し、事業を実施しています。また、事業以外の場面でも、地域活動者や団体等との連携や支援、ネットワークづくり等に取り組んでいます。

〔活動の一例〕

(1) 居場所づくり

孤立防止や仲間づくり、社会参加等を目的に、近隣センターや町会・自治会の会館等を会場に、高齢者や子育て向けのふれあいサロン等の居場所づくりに取り組んでいます。



(2) 普及啓発

福祉活動の普及啓発等を目的に活動や講座等のイベントのお知らせ、活動者や地域情報の紹介等、特色を活かした広報PR活動に取り組んでいます。



(3) 人材の発掘や育成

新たな人材の確保や育成を目的に、一般市民を対象とした福祉講座や制度等の勉強会の他、サロン等で活動するボランティアのスキルアップ研修の開催等に取り組んでいます。



(4) 地区懇談会

地区別計画の推進や地域の課題を話し合いニーズ発掘を行うこと等を目的に、地区社協関係者の他、一般市民や活動者、活動団体等も交えた懇談会の開催に取り組んでいます。



(5) ふれあい交流事業

地域住民同士や高齢者と子どもの世代を超えた交流等を目的に、敬老会や一人暮らしの集い、ふれあい給食等の開催に取り組んでいます。



Ⅲ 地区別計画の推進

1 地区別計画とは

地区別計画は、「住民が、その地域の特性や課題、方向性等を話し合い、理想の実現や課題解決に向けた今後の取り組み等を共有し、計画化することで、“住民主体による地域性を考慮した活動を効果的に推進すること”」を目的として策定しています。

地区別計画は、健康福祉活動における計画となるため、地域福祉を推進する中心的組織であるふる協（地区社協）を中心に、地域のあらゆる分野の方々の参加と協力を得ながら推進します。計画の期間は、2019年度から2024年度までの6年間です。

2 策定方法と計画の活用

(1) 策定方法

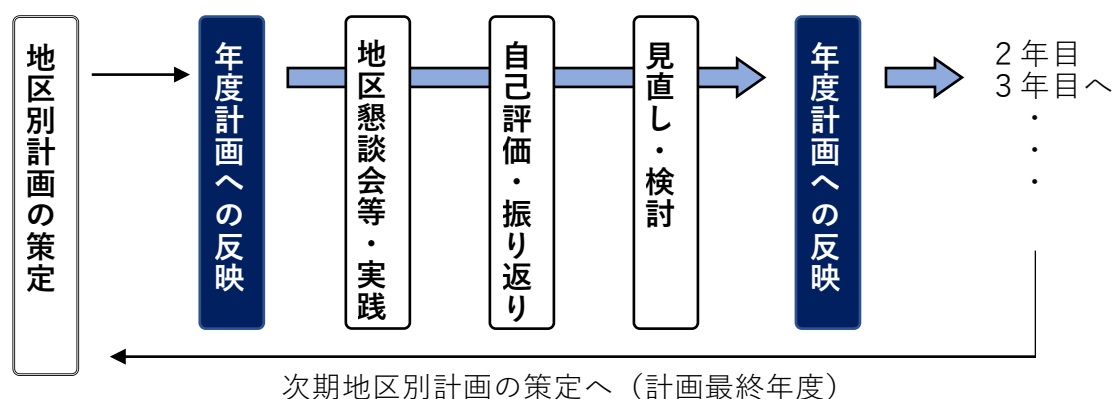
第4期の地区別計画は、第3期の活動計画時に策定した「地区別計画」を各地区で見直し、新たな6カ年計画として策定しました。

(2) 計画の活用

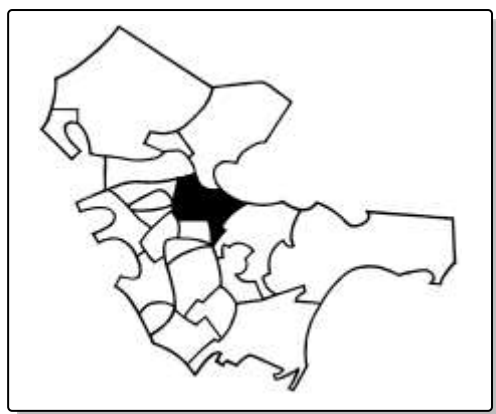
地区別計画の目的は、“策定”ではなく“目標の達成”になります。そのため、毎年度の事業計画や地区懇談会への地区別計画の反映、役員交代による新役員への方向性や事業内容の引継ぎ等、様々な場面で地区別計画を活用してください。地区別計画で掲げた目標の達成に向けて、地区別計画を数多くの場面で活用し、継続的に取り組むことがとても大切になります。

3 計画の進め方と評価

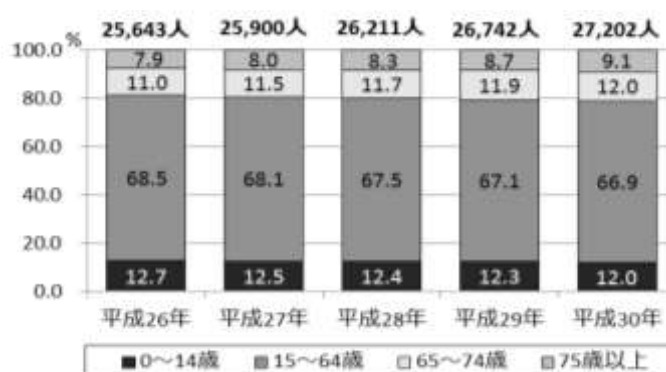
計画の推進は、地区社協活動助成金を活用して取り組むことができます。また、当該年度の事業計画書の活動内容が、1年を通じてどのように実施されたか（実績）等、自己評価（成果や課題の振り返り）を行いながら、進めていくものです。



柏中央地区福祉活動計画



■ 柏中央地区の人口割合



地域福祉向上のため

いつまでも住み続けたいと思える笑顔あふれる地域づくり

を目指します！

1 『情報を共有していくため、共に誘いあえるご近所づきあい』に取り組みます！

住民相互に声をかけあい、お誘い合うことでコミュニケーションを充実させ、地域行事への参加を促していく。

2 『町会・自治会の枠を越えた、世代間交流の充実』に取り組みます！

既存のふれあい運動会を中心とした世代間交流を行い、地域への関心を醸成していく。

3 『多様な活動を知る機会の充実と多職種からの参画』に取り組みます！

多様な地域活動を知り理解を深めていく。更に多職種（学校関係、福祉施設等）の参加を得て、地域づくりを展開する。

●●● 柏中央地区は、こんな地域です ●●●

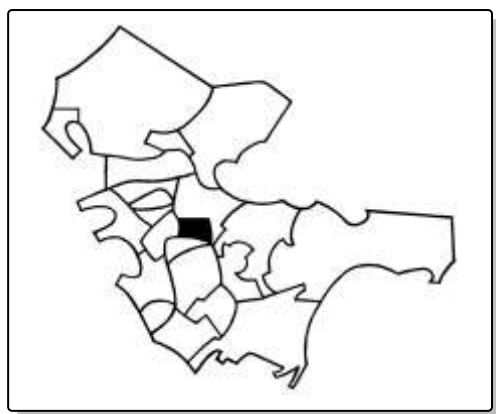
魅力

- ① 商業地であり、交通の便が良い
- ② 優秀な人材が潜在している
- ③ ふれあいサロン、交流イベント事業が盛んである

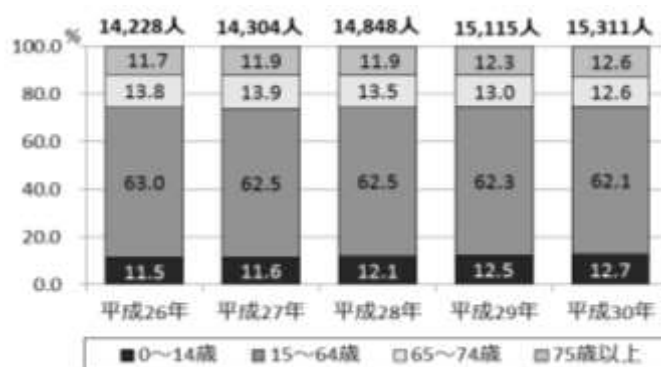
悩み

- ① 町会未加入世帯が増加傾向。新築マンションの問題等
- ② 担い手・後継者問題
- ③ 町会における高齢化が深刻

新田原地区福祉活動計画



■ 新田原地区の人口割合



地域福祉向上のため

**年代や境遇の異なる人々が、互いに信頼し合い、自然に
支えあえる地域づくり**

を目指します！

1『支えあい・助けあい活動の充実』に取り組めます！

一層の高齢者（後期高齢者の増加）に備え、「ひまわりの会」やサロン活動の充実により、安心して住み続けられる地域にする。

2『子育て支援』に取り組めます！

孤立することなく安心して子育てができ、子どもたちが成長した後に「我がふるさと」と想えるような地域としていく。

3『人材育成』に取り組めます！

地域活動の楽しさや「つながり」の健康効果等を広めつつ、新たな地域活動人材の確保と育成に努める。

●●● 新田原地区は、こんな地域です ●●●

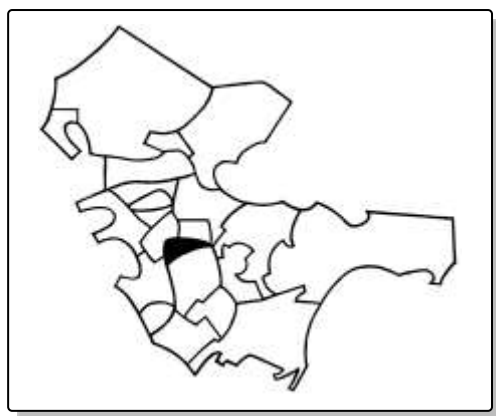
魅力

- ① 自然災害が少ない
- ② 公園や緑が多い
- ③ 子どもが増えている

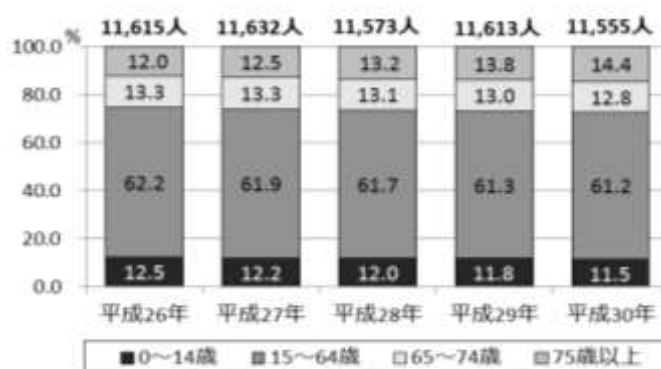
悩み

- ① 高齢化・独居世帯が増えている
- ② 空き家が多くなっている
- ③ お店が減って買い物が不便

永楽台地区福祉活動計画



■ 永楽台地区の人口割合



地域福祉向上のため

住民が向う3軒両隣で支え合える地域づくり

を目指します！

1 『地域の支えあい活動「きんりんの会」の充実』に取り組めます！

2018年10月、7町会新体制（有償）で活動スタート。

2 『子供からお年寄りまで元気で明るいまちづくり』に取り組めます！

子育て支援・子供とお年寄りの交流・お年寄りの居場所づくり。

3 『新規事業の展開と若手ボランティアの育成』に取り組めます！

ふる協と連携し、新規事業の開拓、人材の育成を行う。

●●● 永楽台地区は、こんな地域です ●●●

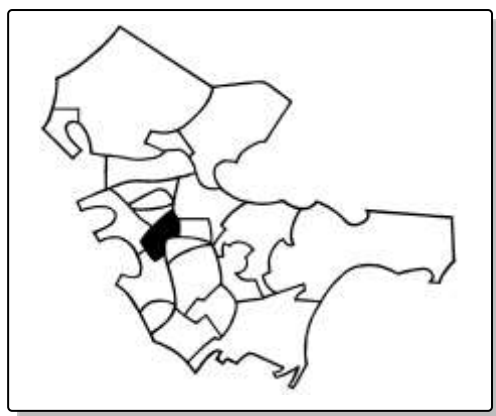
魅力

- ① 治安がよく生活環境に恵まれている
- ② ご近所同士のつながりがよい
- ③ 地域行事への理解度が高い

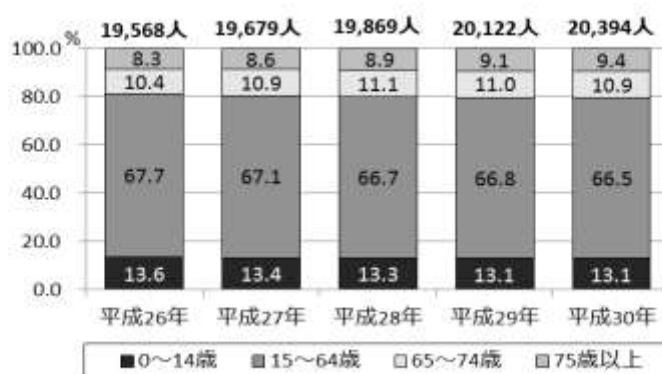
悩み

- ① 坂が多い、アップダウンが多い
- ② バス路線がない
- ③ 通学時間車の交通量が多い

富里地区福祉活動計画



■ 富里地区の人口割合



地域福祉向上のため

であいふれあい楽しい地域づくり

を目指します！

1 『子供から高齢者まですべての地域住民のニーズに適した活動』に取り組めます！

子供・子育て家族、生活弱者そして高齢者と幅広く目を向け、それぞれのニーズに適した活動は何か、課題は何かを追い求めていく。

2 『住民が気軽に集える場の充実と支え合いの強化』に取り組めます！

まだまだ引きこもりの高齢者が多いので、引きこもり解消を目指し、孤独者への声掛けと手助けを進めて行きたい。

3 『明日を担う人材の確保と育成に努力し、活動の継続』に取り組めます！

活動の更なる充実と継続をしていくためには、人材の確保が重要。各種行事や集会等を通して情報を集め人材の掘り起こしをしていきたい。

●●● 富里地区は、こんな地域です ●●●

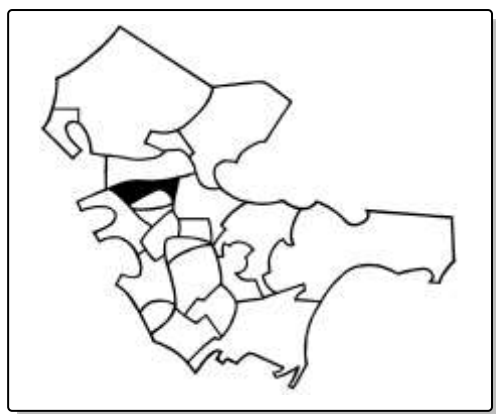
魅力

- ① 買い物に便利等生活環境が良い
- ② 人口が多く、行事参加者が集まる
- ③ 地域と小学校の協力が進んでいる

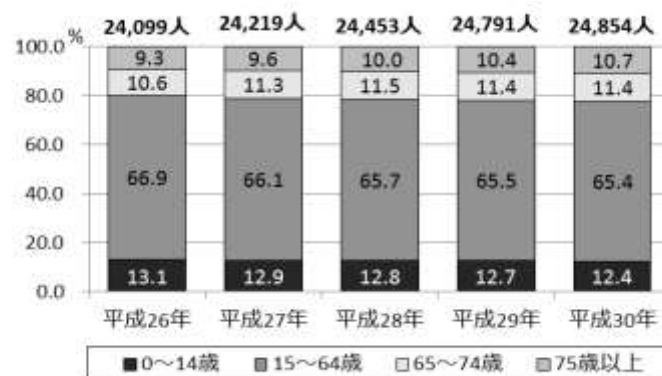
悩み

- ① 道路が狭く、高齢者の外出に不便
- ② 子どもの減少と高齢化が進んでいる
- ③ 集合住宅の協力が薄く、コミュニケーションが取りにくい

豊四季台西地区福祉活動計画



■ 豊四季台西地区の人口割合



地域福祉向上のため

誰もが安心して暮らすことの出来る地域

を目指します！

1 『地域で支え合う基盤づくり』に取り組みます！

地域の中で、人と人とのつながりが薄くなっている。一方では、高齢者や単身者が増え、支援が必要な方や困りごとに対応するための仕組みづくりが課題であること。

2 『地域で暮らす人々が、地域の中で生きがいを持てる仕組みづくり』に取り組みます！

役員や公的ボランティアを引き受ける人が少ない。サロン等でも、次を託せる人材の発掘が大きな課題であること。

3 『当地区社協所属の組織の他、他の組織との連携の強化』に取り組みます！

地域の様々な組織が抱える情報や問題点を共有化することにより、福祉向上のためのニーズを掘り起こすことが、基盤づくりや人材発掘の仕組みづくりに重要であると考えられること。

●●● 豊四季台西地区は、こんな地域です ●●●

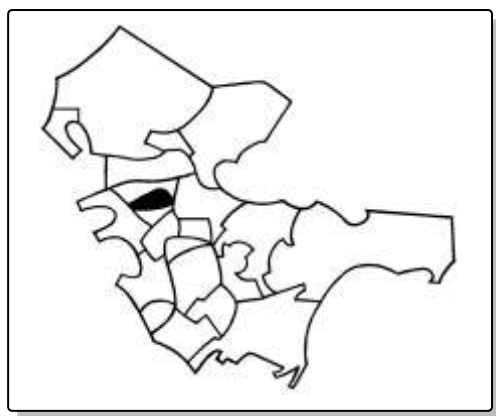
魅力

- ① 公共施設が多い
- ② 交通の便が良い
- ③ 子供への支援、見守り体制が出来ている

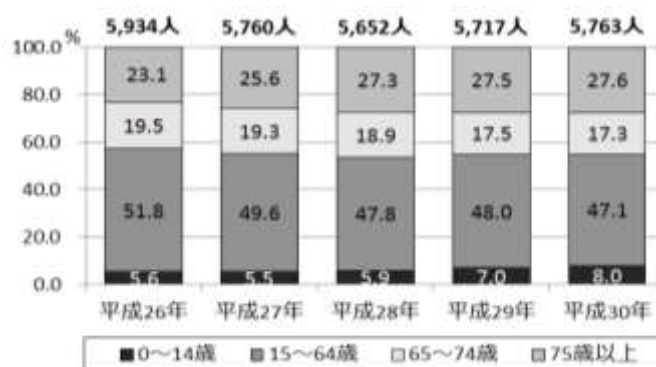
悩み

- ① 高齢化が進み、困り事が増えている
- ② 地域のつながりづくり
- ③ 道路状況が現在の生活に合わない

豊四季台地区福祉活動計画



■ 豊四季台地区の人口割合



地域福祉向上のため

人間相互のふれあいを充実させ、明朗で健全な地域

を目指します！

1『挨拶の町 豊四季台』に取り組めます！

子ども大人も元気で明るく挨拶し、身近な繋がりや近隣愛を大切にしていきたい。

2『地域活動に関心を持つ“身近な人材の発掘”』に取り組めます！

「豊四季台に住む隠れた人材」を発掘すること。そして、豊四季台でやりたいことや必要なことを自分たちの手で実現していけるようにしていきたい。

3『子どもと高齢者の交流の場づくり』に取り組めます！

子ども達の笑顔は、高齢者や地域を明るくします。幼稚園、小、中学校の交流を広げて、活気のある豊四季台を再び取り戻したい。

●●● 豊四季台地区は、こんな地域です ●●●

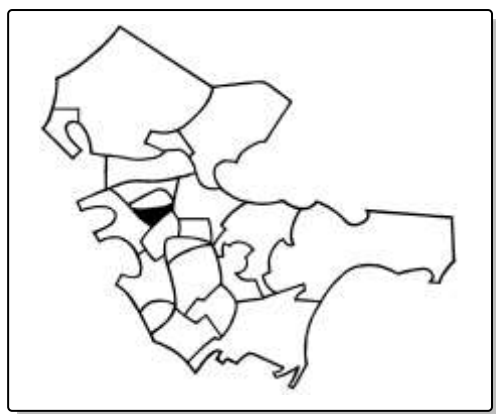
魅力

- ① 生活環境が整っている
- ② 住民同士の繋がりが強い
- ③ 福祉施設が充実している

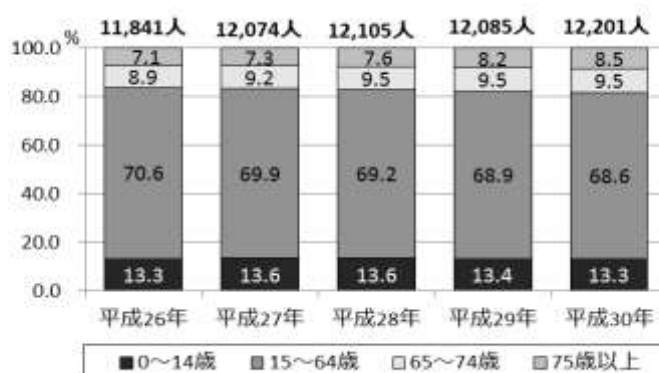
悩み

- ① 建て替えに伴ない交流が少なくなった
- ② 今後の建て替えに不安
- ③ 一人暮らしの方が多く、生活に不安

旭町地区福祉活動計画



■ 旭町地区の人口割合



地域福祉向上のため

子どもからお年寄りまでみんなが安心・笑顔で 支え合えるまちづくり

を目指します！

1 『「住民が気軽に集える場所」と「出会いを必要としている人」をつなぐこと』 に取り組めます！

- ▶ 場と場（関係機関、地区内の教育機関等）の交流
- ▶ 場を必要な人へ情報発信できるネットワークがあると良い
- ▶ できることからやっていくのが旭町地域

2 『多世代がつながりを持てる環境づくり』に取り組めます！

支え合い活動を推進するため、普段から挨拶を行うなど子どもからお年寄りまで係ることのできる環境を作ると良い。

3 『災害時や困った時に、助け合える関係づくり』に取り組めます！

孤立している人が、困った時に、誰かに助けてと言えて、お互い助け合える関係を作りたい。

●●● 旭町地区は、こんな地域です ●●●

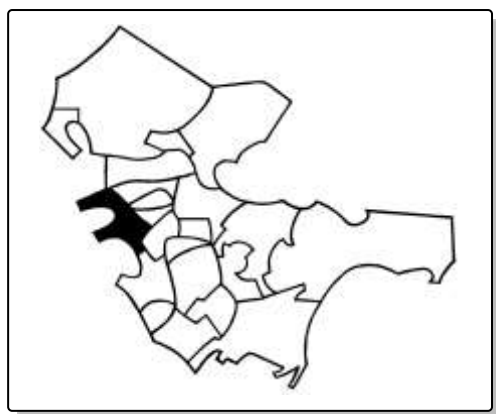
魅力

- ① 駅に近く住みやすい
- ② 自然災害が無く、自然豊か
- ③ 元気な高齢者、若い世代が多い

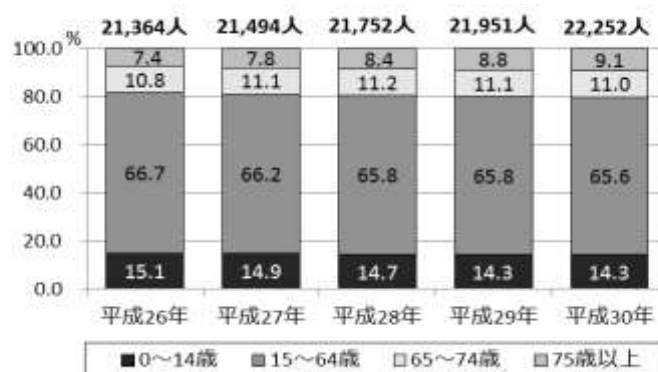
悩み

- ① 新住民、旧住民、世代の違いが顕著、地域と人とのつながりが希薄
- ② 活動場所が少ない
- ③ 活動者のうち、高齢者が多い

新富地区福祉活動計画



■ 新富地区の人口割合



地域福祉向上のため

町会長等役員、民生委員等制度ボランティア、町会員等一般住民ボランティア等の相互理解・連携強化、及び柏市行政支援による年度単位の地域福祉事業P D C Aの実施

を目指します！

1 『「地域福祉実現の要諦は共助の実現如何で、町会による」を基本理念に、地域事情を味した支えあい活動の体制確立と事業目標の設定、および貫徹』に取り組みます！

- ① 対象活動は、高齢者向けの居場所（現状4箇所⇒7箇所以上）と日常生活支援（ゴミ出し支援を主に、要望に100%対応）、及び児童向けの登下校安全化活動、並びに乳幼児の交流場所設置による育児支援
- ② 大きい町会は、適度なサイズに分割、
- ③ 小さい町会は複数で協働 等の視点

2 『地域福祉企画機能の強化と、ふる協の場における町会福祉行動力の強化・研鑽』

に取り組みます！

- ① 新富ふる協福祉部は、地域福祉の企画調査を主管する。② 企画調査の対象活動単位は以下の通りとする。ア. 町会（大町会は小学校通学区単位）、イ. 老人会、ウ. こども会、エ. 民生委員、オ. 健康づくり推進員、カ. 支えあい団体等
- ③ 分掌事務は、地域福祉の実態把握と、新企画、及び住民への発信・啓蒙

3 『ボランティア人材の発掘と、積極的な登用』に取り組みます！

- ① 人材募集活動の運営主体は町会、事務局機能はふる協福祉部と地区社協が担当
- ② 地域福祉のボランティア人材のニーズを先読みできる仕組みの確立

●●● 新富地区は、こんな地域です ●●●

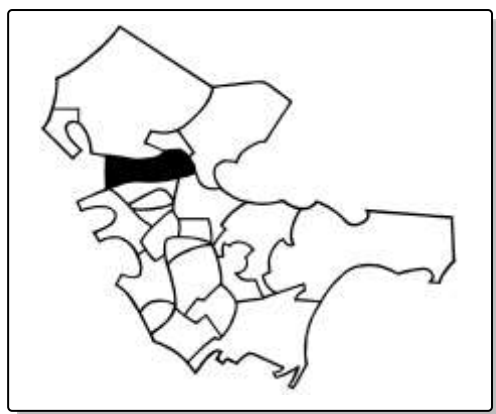
魅力

- ① 夏祭り・運動会等、イベントが多く参加者も多い。
- ② コミュニティエリア内小中学校と地域活動のコミュニケーションはよい。
- ③ 自然災害が少ない。

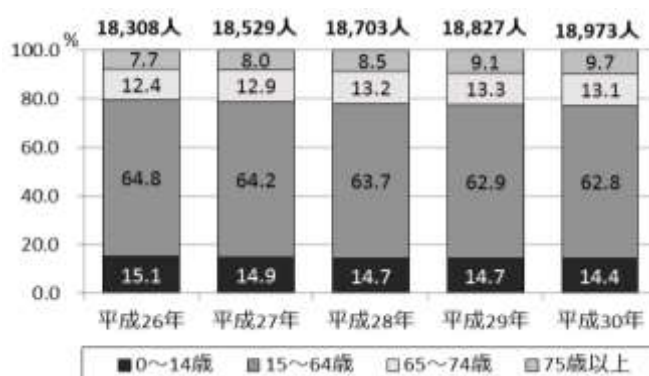
悩み

- ① 南北4kmと細長く、地理的にコミュニケーションがとりづらい。
- ② コミュニティエリア外の学校に通う小中学生が多い。通学区が複雑。
- ③ 町会単位で、福祉情報・防犯情報等が得られない（特に豊四季字名地域）

高田・松ヶ崎地区福祉活動計画



■ 高田・松ヶ崎地区の人口割合



地域福祉向上のため

隣近所からみんなでつくる“ふくしの輪”

を目指します！

1 『未来を担う子どもたちをみんなで優しく見守る意識づくり』に取り組みます！

大人になっていく現在の子どもたちを、地域のみんなが連携し優しく見守り育んでいくことで、将来の高田・松ヶ崎地域が“ふくしの心”を持つ住民で溢れていく！

2 『住民みんなが安全安心に暮らせる地域づくり』に取り組みます！

学校や地域の団体との連携を一層強化し、犯罪や災害に強い住民と体制をつくることで、地域のみんなが安心して生活できる高田・松ヶ崎地域をつくっていく！

3 『みんなの心がつながる、笑顔あふれる集いの場づくり』に取り組みます！

いつでも気軽に立ち寄れて、世代や性別を超え、みんなの心がつながることができ場をつくることで、高田・松ヶ崎地域に笑顔や笑い声が溢れていく！

●●● 高田・松ヶ崎地区は、こんな地域です ●●●

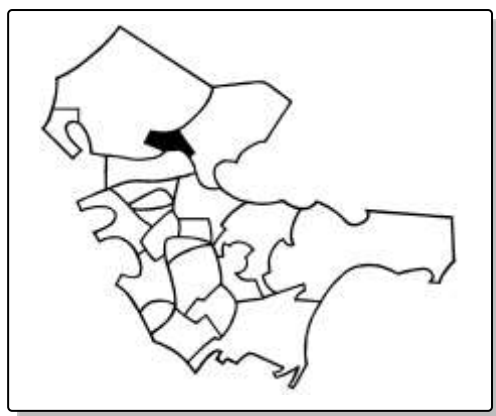
魅力

- ① 地域内の連携が強い
- ② サロン活動が充実している
- ③ 大堀川を中心とした自然豊かな環境

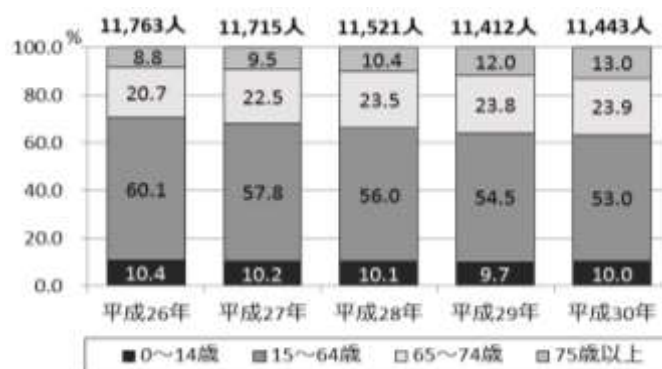
悩み

- ① 急速な少子高齢化
- ② 新・旧住民の交流が少ない
- ③ 地域活動の担い手不足

松葉地区福祉活動計画



■ 松葉地区の人口割合



地域福祉向上のため

みんなが主役のまちづくり

を目指します！

1 『助けあい活動の連携と充実』に取り組めます！

地域の生活支援団体などが連携し、協力しあう。

2 『気軽に集える居場所づくり』に取り組めます！

高齢者や子育て世代など、それぞれが集いあう場だけでなく、世代を超えて誰もが集える場でつながりを深める。

3 『子ども・子育て世代が住みやすい街づくり』に取り組めます！

日常的な子どもの見守りなど、子育てを大切にしたい街づくり。

●●● 松葉地区は、こんな地域です ●●●

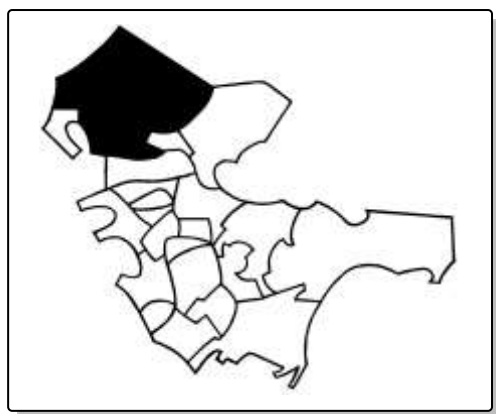
魅力

- ① 組織のまとまりがよく、地域行事が活発
- ② 病院、学校、商店街など住環境が整っている
- ③ 人材が豊富で、人との繋がりができている

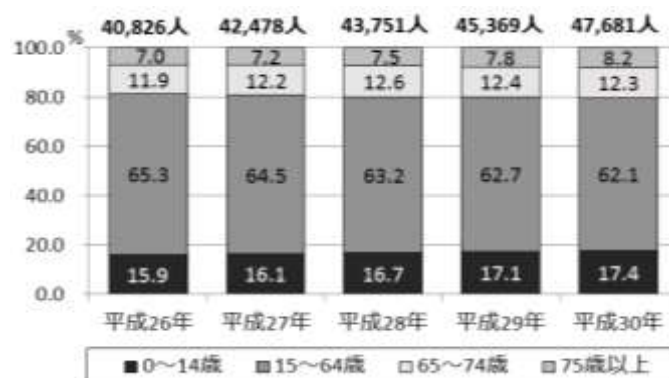
悩み

- ① 高齢化し、担い手が固定化している
- ② 若い世代と地域の関わりが薄い
- ③ 日常的な居場所が少ない

田中地区福祉活動計画



■ 田中地区の人口割合



地域福祉向上のため

**新旧住民同士が仲良く交流し、子どもからお年寄りまで
支えあって安心して暮らしていける田中地域**

を目指します！

1『個人への情報発信と町会・自治会をはじめとする各団体、組織との連携強化』に取り組みます！

住民ひとりひとりに向けた情報発信実現のため

2『地域活動を支えあう人材の発掘と育成』に取り組みます！

地域の悩みである地域活動の担い手不足に対応していくため

3『地域の多様なニーズにこたえられる活動』に取り組みます！

多様化する地域ニーズに対応していくため

●●● 田中地区は、こんな地域です ●●●

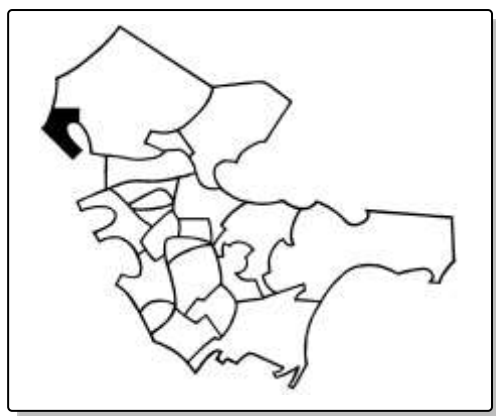
魅力

- ① 子育てしやすい環境
- ② 地域サロン
- ③ 地産地消を楽しめる

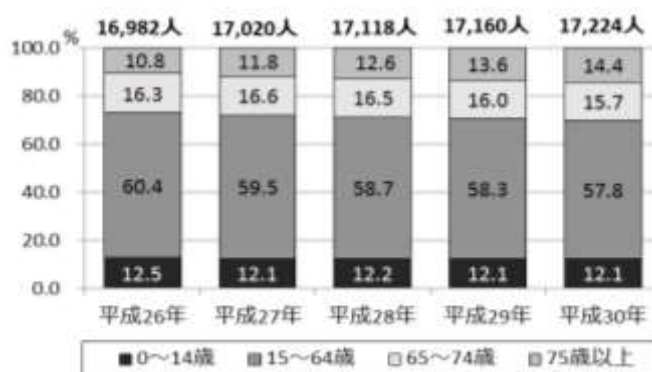
悩み

- ① 地域活動の担い手不足
- ② 交通網の地域格差がある
- ③ 住民同士のつながりが希薄

西原地区福祉活動計画



■ 西原地区の人口割合



地域福祉向上のため

互いに支えあい、安心して暮らせる西原

を目指します！

1 『「住民が気軽に集える場」の拡充」に取り組めます！

様々な年代間が、集える通いの場を広めていく。

2 『世代を越えた人材の育成』に取り組めます！

元気な高齢者が多いので、支えあい活動に生かし、社会参加を促す。

3 『更なる防犯・防災意識を高める』に取り組めます！

各学校との連携を取り、防犯・防災意識を高め、隣近所とのコミュニケーションを強化する。

●●● 西原地区は、こんな地域です ●●●

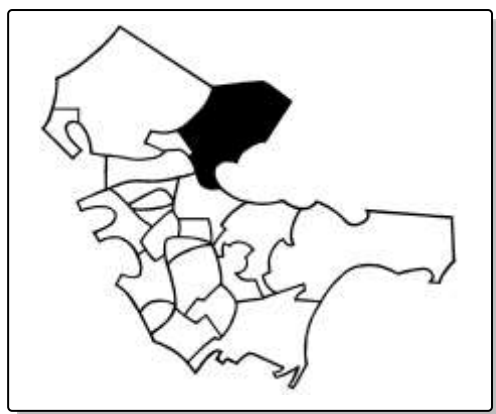
魅力

- ① 元気な高齢者が多い
- ② 住みやすい環境
- ③ 地域の協力意識が強い

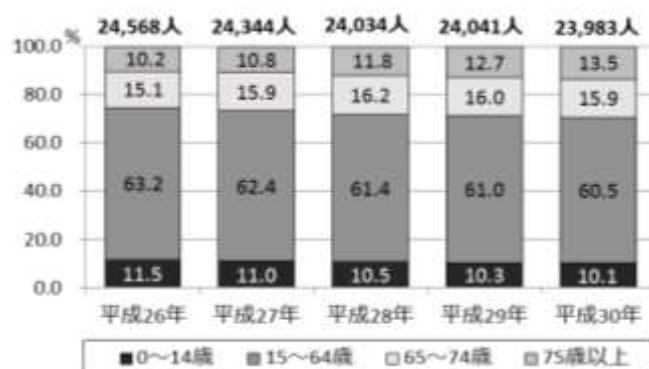
悩み

- ① 空き家の増加
- ② 医療機関が少ない
- ③ 児童センターがない

富勢地区福祉活動計画



■ 富勢地区の人口割合



地域福祉向上のため

お互いが声をかけ合い支えあう地域づくり

を目指します！

1 『それぞれの組織・団体が手を取り合って活動を進めていく事』 に取り組めます！

趣味の集いや地域の集いにも活動を広めていきます。

2 『非常時だけでなく、日常生活での困り事等を支え合うネットワークづくり』に取り組めます！

超高齢社会へ対応します。

3 『在宅ケア・医療制度の地域での継続した学習』に取り組めます！

医療機関・行政との連携、拡大に取り組めます。

●●● 富勢地区は、こんな地域です ●●●

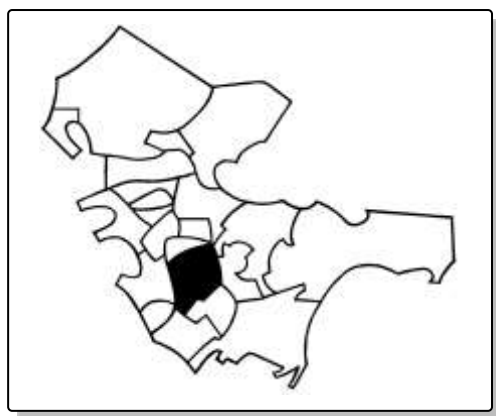
魅力

- ① 自然と歴史に恵まれた地域
- ② 地域と学校との関係が深い
- ③ 行事・イベントなどへの参加意識が高い

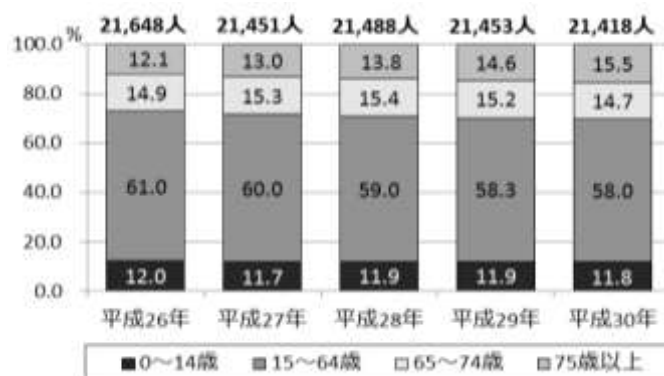
悩み

- ① 活動の担い手不足
- ② 公共交通機関の不足
- ③ 高齢化率が一ランク高い

土地区福祉活動計画



■ 土地区の人口割合



地域福祉向上のため

誰もが主役で多世代交流型コミュニティづくり

を目指します！

1 『「つながり」と「きっかけ」を生かし、地域を支援する『人づくり』』に取り組めます！

児童生徒に対する郷土愛・おもいやりの心の醸成と、高齢者の生きがいセミナーの開催。PTA・青少協・青少年相談員活動等へ協賛による次世代リーダーの発掘。

2 『「人々を繋ぐきっかけ」として地域ぐるみで子育てをするための『組織づくり』』に取り組めます！

「地域の子供を自分の孫のように育てる」ことが、高齢者の生き甲斐になり孤立防止に繋がる。子育て世代も「他人任せ」への反省から地域活動への参加を期待。

3 『「子ども」と「大人」も皆が集まる『居場所づくり』』に取り組めます！

高齢者の集う定期開催のサロンはあるものの、小・中学生が学校以外で集える場所は少ない。児童生徒の行動パターンの分析、高齢者と集える場所の確保。

●●● 土地区は、こんな地域です ●●●

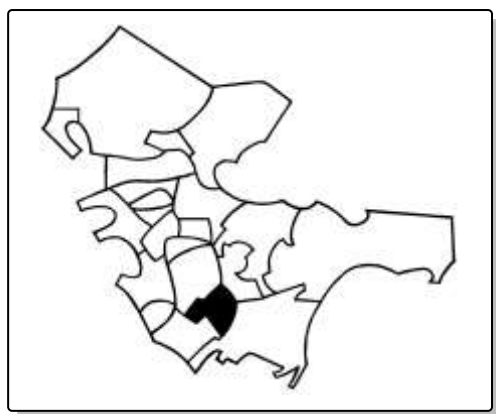
魅力

- ① 自然が豊か
- ② 生活が便利
- ③ 老人が多く穏やかな場所

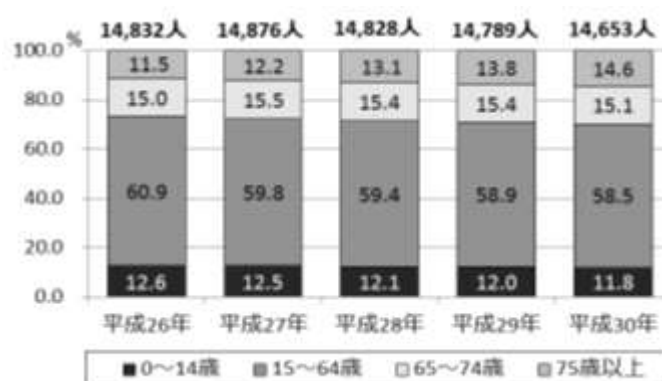
悩み

- ① 集会場が少ない（センター遠い）
- ② コミュニケーションが少ない
- ③ 子ども・若者が少ない

藤心地区福祉活動計画



■ 藤心地区の人口割合



地域福祉向上のため

子どもから高齢者まで安心していつまでも住み続けたいと思う地域・藤心

を目指します！

1 『住民が気軽に集える場所づくり』に取り組みます！

子どもから高齢者まで気軽に集える所にしたい。

2 『日常生活で支援を必要とする人たちの支えあい活動』に取り組みます！

高齢社会に伴い、支援をする人たちの拡大を図る。

3 『地域の交流を深め、次世代の担い手づくり』に取り組みます！

福祉活動の担い手を育成し、地域の活性化を図る。

●●● 藤心地区は、こんな地域です ●●●

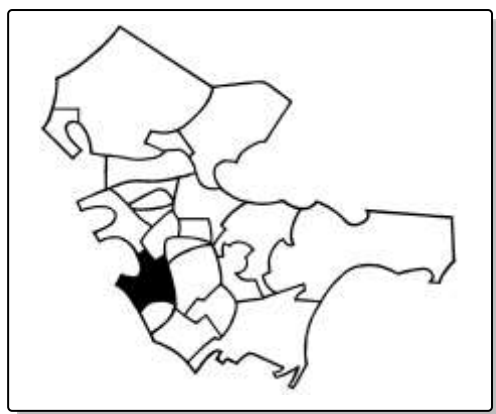
魅力

- ① 夏祭り等のイベントが活発
- ② 静かな住環境
- ③ 災害が少ない地域

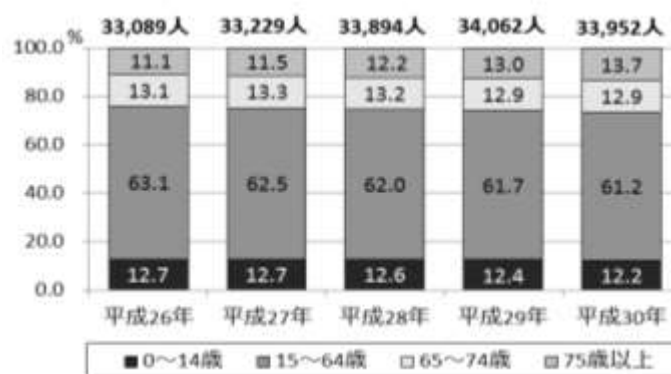
悩み

- ① 高齢社会になっている
- ② 地域活動への関心が薄い
- ③ 地域活動の担い手不足

光ヶ丘地区福祉活動計画



■ 光ヶ丘地区の人口割合



地域福祉向上のため

あいさつで 心かよわす まちづくり 光ヶ丘

を目指します！

1 『地域の支え合い活動の推進』に取り組みます！

子育て世代や高齢者、障害者等の“つながり”を地域ぐるみで深めるため

2 『万一(災害等)にも備えた日常的な交流と見守りの推進』に取り組みます！

孤立防止、災害時の対応、住民同士の世代を超えた交流・信頼関係づくりのため

3 『地域活動に参画する“きっかけ”を重視した担い手づくり』に取り組みます！

地域活動の担い手（特に若い世代）を育成・確保するために、まずは、多くの地域活動に参加できるような仕組みやきっかけが必要なため。

●●● 光ヶ丘地区は、こんな地域です ●●●

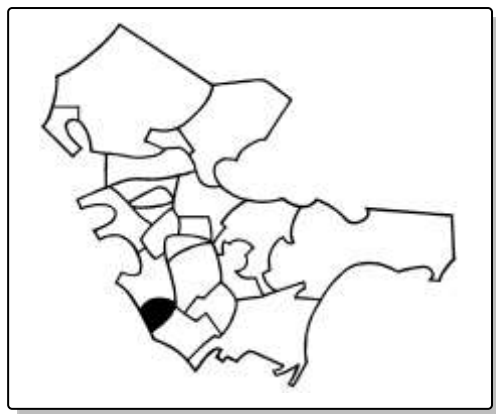
魅力

- ① 住環境と交通の便が良い
- ② 町会組織がしっかりしている
- ③ 地域活動に協力的

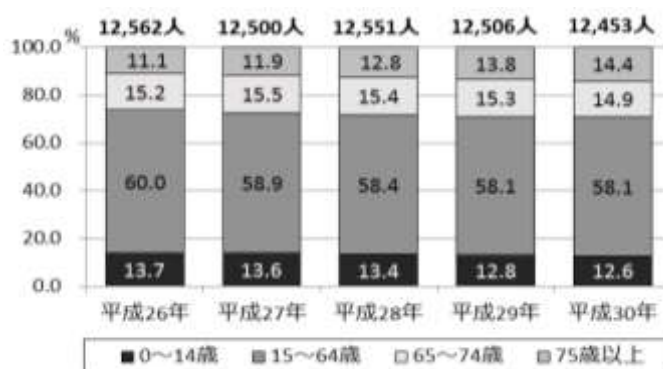
悩み

- ① 少子高齢化の進行
- ② 地域活動の担い手不足
- ③ 若い世代の地域参加が少ない

酒井根地区福祉活動計画



■ 酒井根地区の人口割合



地域福祉向上のため

安心、安全な街づくり

を目指します！

1 『支えあい活動の推進』に取り組みます！

- ▶ 町会・自治会との連携
- ▶ 心さかイイネの会へのサポート

2 『子供からお年寄りまでのサロン活動等の充実』に取り組みます！

- ▶ 世代間交流
- ▶ サロン参加への声かけ

3 『災害に備えた福祉活動』に取り組みます！

- ▶ 高齢者・障害者等への避難体制の整備
- ▶ 地域の福祉施設との連携

●●● 酒井根地区は、こんな地域です ●●●

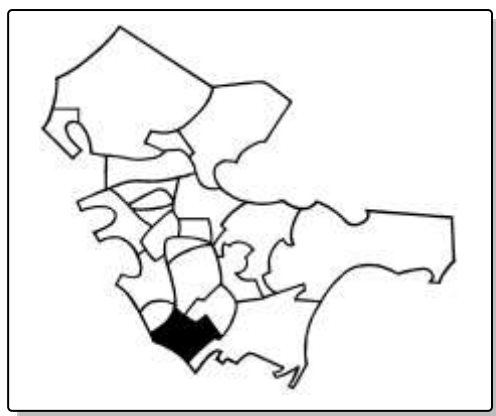
魅力

- ① 元気な高齢者が多い
- ② 福祉施設の充実
- ③ 音楽の街

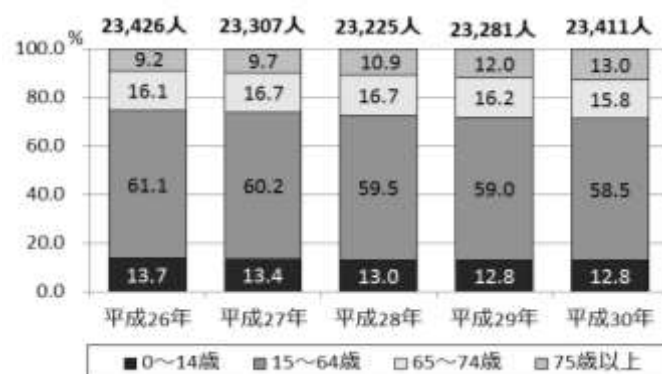
悩み

- ① 道路がせまい
- ② 地域包括支援センターが遠くなった
- ③ 空地の管理

南部地区福祉活動計画



■ 南部地区の人口割合



地域福祉向上のため

安全・安心と支え合いのある街づくり

を目指します！

1 『次世代がここに住んでいたいと思えるような地域づくり』に取り組めます！

- ▶ 子どもが主体となれるような活動のサポート
- ▶ 若い親世代のサポート

2 『みんながいつまでも自分らしい生活を送るための環境づくり』に取り組めます！

- ▶ 介護予防や健康に関する情報の提供
- ▶ 地域福祉に関する活動団体の交流を図り、ノウハウの共有と協力体制を強める
- ▶ 支えあいの立上げのサポート

3 『地域の安全と安心を守る活動』に取り組めます！

- ▶ 災害時の地域対策並びに自主防災組織の充実とK-NETの取り組み
- ▶ 隣近所の日常の付き合いを大切にする
- ▶ 住環境の改善
- ▶ 地域いきいきセンターを含めた関係機関と連携して相談を受けとめる体制作り

●●● 南部地区は、こんな地域です ●●●

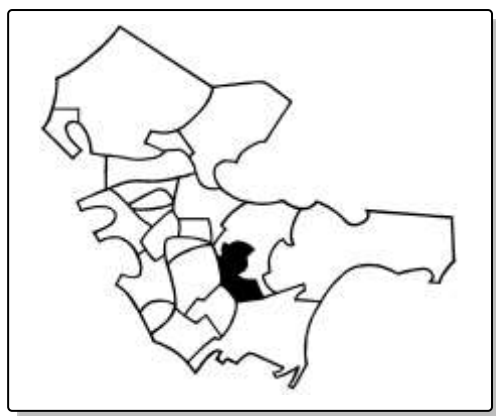
魅力

- ① 緑が多い
- ② 近所のつながりが活発
- ③ 町会活動の活発な所が多い

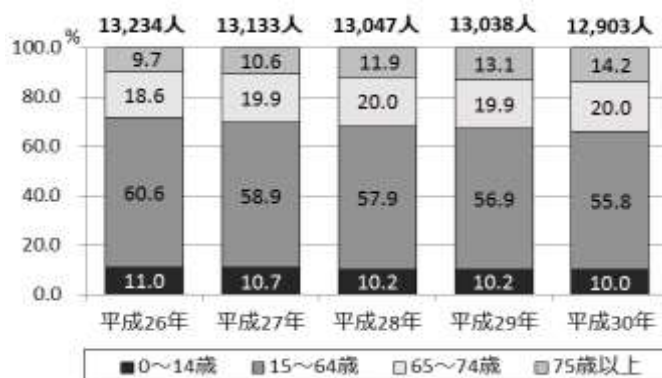
悩み

- ① 交通の便が悪い
- ② 高齢化の進行
- ③ 子供の遊び場が少ない

大津ヶ丘・塚崎地区福祉活動計画



■ 大津ヶ丘・塚崎区の人口割合



地域福祉向上のため

安心して暮らせる地域づくり

を目指します！

1 『“助けて”と気軽に言える近所づきあい』に取り組めます！

ひとり暮らし・核家族家庭・高齢者世帯など困りごとを抱える方々が孤立しないように、隣近所の交流を深める。K-netの周知を図り、活用方法を推進する。

2 『世代を越えた交流の推進』に取り組めます！

世代間交流を行い、地域でのふれあいを広げる。

3 『困りごとが解決できる地域を目指す』に取り組めます！

助け合い活動の充実を図る。

●●● 大津ヶ丘・塚崎地区は、こんな地域です ●●●

魅力

- ① 自然が豊かで子育てに良い環境
- ② 顔見知りが多い
- ③ ふれあいサロン事業が盛んである

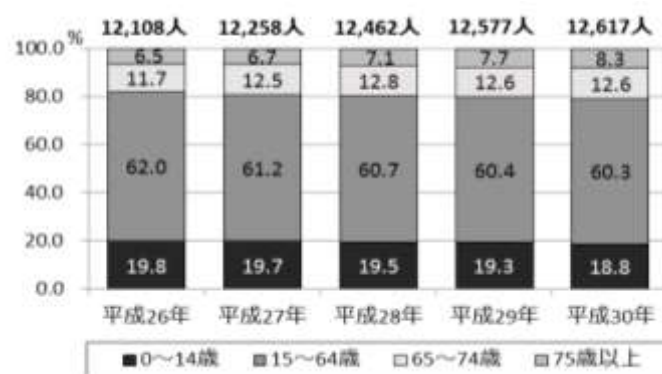
悩み

- ① 高齢化が進んでいる
- ② 交通の便が悪い
- ③ 地域活動者の担い手不足

風早北部地区福祉活動計画



■ 風早北部地区の人口割合



地域福祉向上のため

核家族化の進展によるすべての世代の孤立化を防ぐ

を目指します！

1 『おあいこの充実』に取り組めます！

すべての世代がお互いに助けあう。

2 『地域の特性を生かして、多世代が交流できる場づくり』に取り組めます！

世代間の交流をととして、互いにあいさつできる関係づくりをする。

3 『すべての世代が地域の情報を共有できるしくみづくり』に取り組めます！

学校、PTA 等と地域が一緒になって地域活動を企画し取り組む。

●●● 風早北部地区は、こんな地域です ●●●

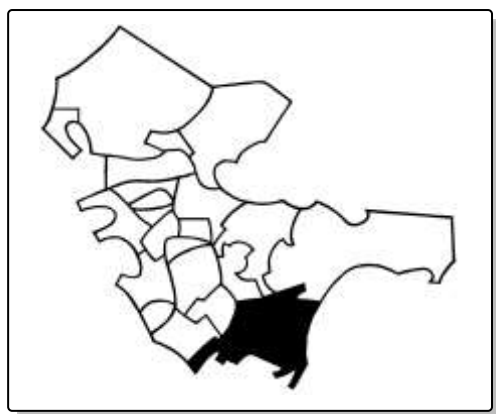
魅力

- ① 自然が豊かである
- ② 人とのつながりが深い
- ③ 災害が少ない

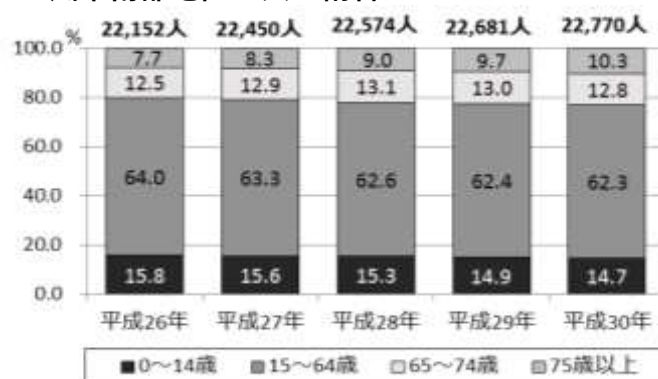
悩み

- ① 交通について、高齢者にとっては不便。子どもにとっては、危険な場所が多い
- ② 世代間の交流が少ない
- ③ 高齢化が進んでいる

風早南部地区福祉活動計画



■ 風早南部地区の人口割合



地域福祉向上のため

各世代の人が助け合い、共にいきいき暮らせる地域

を目指します！

1 『孤立化の防止』に取り組めます！

近所付き合い、隣組的な繋がりが必要。情報発信の強化（回覧やチラシの配布）サロンやホットコーナー、イベントへの参加推進。
認知症対策の講習と仕組みづくり。見守り活動の充実。

2 『後継者育成』に取り組めます！

ボランティア（出来る時に、出来る人が、出来る事を）の魅力を伝え、各世代の人へアプローチ。

3 『日常生活の支援』に取り組めます！

高齢化に伴い、通院や買い物などができなくなる人のために、生活支援をする助けあい活動のPRと内容の充実。

●●● 風早南部地区は、こんな地域です ●●●

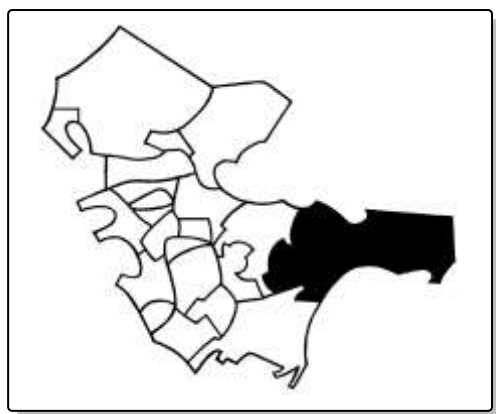
魅力

- ① 学校と地域の交流が多い
- ② 自然が豊か
- ③ 住民の交流がある

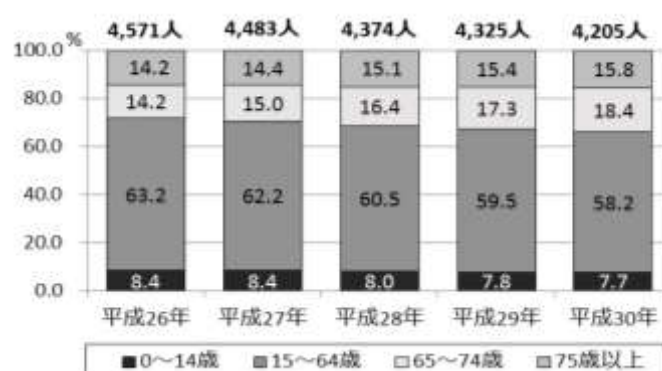
悩み

- ① 地区によって交通が不便
- ② 高齢化が進んだ地区が多い
- ③ 区・町会の未加入（回覧が回らない）

手賀地区福祉活動計画



■ 手賀地区の人口割合



地域福祉向上のため

住み慣れた自然豊かな環境の中で、いきいきと暮らすこと

を目指します！

1 『身体を健康を維持するため、健康診断や介護予防など保健事業の啓発』に取り組みます！

生涯現役の農業従事者は老化のきざしが出ている人が多いので、介護予防（出前講座）・サロン（仲間づくり）を行う。また、特定健診の受診率向上にも努める。

2 『地域で支えあっていく仕組み(互助)をつくり、地域での問題解決能力を高めていくこと』に取り組みます！

結の里てがの体制を充実し、有効活用していく。

3 『将来を担う子どもたちに集いの機会(遊びの場)を設けて子育ての応援』に取り組みます！

育児の不安や課題に対してアドバイスや情報提供をして仲間づくりをする。他組織との協働で多世代交流の場を設ける。

●●● 手賀地区は、こんな地域です ●●●

魅力

- ① 自然が豊か
- ② 消費地の近くで農業が出来ること
- ③ 地区内のほとんどは顔見知りで絆が強い

悩み

- ① 少子高齢化
- ② 交通が不便
- ③ 伝統行事が失われつつあること

資 料

I 計画の策定経過

(1) 第4期 柏市地域健康福祉計画（行政計画）との連携

第4期柏市地域健康福祉計画（行政計画）との連携を図り、共通の方向性をもって計画の策定及び推進を図るため、調査結果や策定過程等を共有し、連携をもって計画の策定を図りました。

(2) 柏市地域支えあい推進協議会での協議

広く関係者の意見聴衆や協議、提案の場として、柏市地域支えあい推進協議会を活用し、全8回にわたり意見を伺いました。

回数	期 日	主な検討内容
第1回	平成29年 4月14日	第4期柏市地域健康福祉活動計画策定の説明
第2回	7月14日	計画に取り入れるべき視点や取り組み、思い
第3回	11月10日	地域全体で取り組んでいく事項について
第4回	平成30年 2月 9日	取り組みの柱と具体的な取り組みについて (グループワーク)
第5回	5月29日	総論・取り組みの柱、社協の取り組みへの期待
第6回	7月11日	孤立防止に向けた取り組みについて これからの地域と地区社協(ふる協)について
第7回	11月 9日	社協アクションプランの取り組み(検討案)について
第8回	平成31年 2月 8日	第4期柏市地域健康福祉活動計画(案)について

(3) 意見交換会

今後の地区社協活動の方向性等の意見交換を行い、第4期活動計画に位置づけることを目的に地区社会福祉協議会役員等による意見交換会を開催しました。

期 日	主な検討内容
平成30年 9月19日	22地区を5グループに分けて意見交換を実施 第3期活動計画説明、意見交換「地区社協（ふるさと協議会）の今後の役割と取り組みについて」

(4) 地域共生社会実現に向けた連携会議の設置

市社会福祉課と社協の共同事務局で、保健福祉主要計画所管及び社協事業関連課による連携会議を毎月開催し、課題の共有や連携、各種協議等を行いました。

(5) その他

地域健康福祉計画策定に向けた市民調査や理事部会、各委員会、地区社協連絡会での協議等を活用し、市民ニーズの把握や関係者の意見反映に努めました。

Ⅱ 柏市地域支えあい推進協議会名簿

平成29年4月1日から平成31年3月31日までの2か年間、柏市地域支えあい推進協議会の場を借りて第4期柏市地域健康福祉活動計画策定の議論を行いました。

この間、同協議会の委員として計画策定にご協力頂いた方々は下記のとおりです。

(敬称略)

氏 名	所属団体及び役職
根 本 利 治	柏市ふるさと協議会連合会 会長 (H28.4.1～)
安 田 容 子	松葉町地域ふるさと協議会 副会長 (～H30.3.31)
高 島 典 子	松葉地区民生委員児童委員協議会 会長 (～H30.3.31)
室 井 三千代	風早北部地区民生委員児童委員協議会 副会長 (～H30.3.31)
山 田 美代子	豊四季台地区民生委員児童委員協議会 会長 (H30.4.1～)
少 路 香 子	柏市主任児童委員連絡会 代表 (～H30.3.31)
竹 口 香 苗	柏市主任児童委員連絡会 会計 (H30.4.1～)
本 圖 陽 子	柏市民健康づくり推進員連絡協議会 副会長 (～H30.3.31)
村 上 広 子	柏市民健康づくり推進員連絡協議会 副会長 (H30.4.1～)
堀 田 き み	柏市非営利団体連絡会 代表 (H28.4.1～)
吉 野 一 實	柏市老人福祉施設連絡協議会 会長 (H28.4.1～)
横 尾 好 永	柏市老人福祉施設連絡協議会 副会長 (～H30.3.31)
植 野 順 子	柏市介護支援専門員協議会 副会長 (H28.4.1～)
山 本 敏 子	柏北部地域包括支援センター センター長 (～H30.3.31)
小野田 光 芳	柏西口地域包括支援センター センター長 (～H30.3.31)
神 谷 昌 宏	柏東口第2地域包括支援センター センター長 (H30.4.1～)
古 池 佳 子	柏市西山町会防災会 副会長 柏市社協災害ボランティアコーディネーター (H28.4.1～)
大 濱 あつ子	NPO法人スマイルクラブ 理事長 (H28.4.1～)
菅 井 治 子	柏おもちゃ図書館かたつむり 開館責任者 (H28.4.1～)
細 田 智 子	柏市自閉症協会 会長 (H28.4.1～)
西 藤 尚 子	赤ちゃんのほっぺ 代表 (H30.4.1～)
永 桶 静 佳	前柏市地域生活支援センターあいネット 所長 (H28.4.1～)
吉 江 悟	一般社団法人 Neighborhood Care 代表理事 (H28.4.1～)
矢 富 直 美	一般社団法人 セカンドライフファクトリー 代表理事 (～H30.3.31)
中 島 修	文京学院大学人間学部人間福祉学科 准教授 (～H30.3.31)
酒 巻 薫	保健福祉部次長兼高齢者支援課 課長 (～H30.3.31)
佐 藤 高 市	保健福祉部福祉活動推進課 課長 (～H30.3.31)
松 澤 元	こども部子育て支援課 課長 (～H30.3.31)
沖 本 由 季	地域づくり推進部地域支援課 課長 (～H30.3.31)
秋 山 享 克	柏市社会福祉協議会常務理事兼事務局長 (～H30.3.31)

※ ()は、任期の状況。所属団体及び役職は、委員在任期間のものです。

“私たちの”支えあいプラン
～ 第4期 柏市地域健康福祉活動計画 ～

発行日 平成31年（2019年）3月
発 行 社会福祉法人 柏市社会福祉協議会
〒277-0005 千葉県柏市柏五丁目11番8号
TEL 04-7163-9000 FAX 04-7163-9300

